

昭和 42 年 度 研 究 集 録

望ましい指導計画による
実践事例とその考察

昭和 43 年 3 月 8 日

東京都小学校特別教育活動研究会

昭和43年3月8日

あ い さ つ

東京都小学校特別教育活動研究会会長 齊藤敏夫

昨秋発表された、文部省の教育課程改善の方針によりますと、特別活動の領域の中に「児童活動」という分野として、現行の特別教育活動が位置づけられたようになったことは、ご承知の通りです。

昭和33年の現行指導要領によって、特別教育活動の教育的意義やその内容および指導理念が明確になったとはいえ、これの望ましい姿を実現するための努力の跡が、この10年余りの特別教育活動研究の歩みであったともいえます。たとえば、昭和46年度から実施される新教育課程において、特別活動の中における児童活動というように、その位置づけや名称は変わったにせよ、わが国における小学校教育を貫く理念、または諸教育活動の基盤ともなる現行の特別教育活動を支える理念は、少しも変更されておられません。したがって、現在の特別教育活動の望ましい充実発展の上に、新児童活動が誕生するものであるという考え方や姿勢を堅持することが、望まれます。

本会では、この数年来「特別教育活動の本質をふまえた……」という研究を続けてまいりましたことも、特別教育活動の本質が、その実践活動の上にかされることを念願してきたからに、ほかありません。過去の2・3年にわたっては、指導計画と実施計画のたて方、または両者の関連などにて、実践的な研究をしてまいりましたが、本年度は「特別教育活動の本質をいかした実践例」を収録し、それに考察を加えるという研究を進めてまいりました。

幸いにも、専門部のもとに有能な実践家であり、研究者である先生方のご努力をねがい、きわめて有効なそして能率的な研究を進めていただきましたことに、心からの感謝を捧げる次第であります。

本年に入りましてから、いろいろなお話を伺いますと、最近では特別教育活動の研究会はきわめて活発であり、参加会員の数もとみに増加しているということでもあります。本会でいたしましたこの研究成果が、都下の会員各位の中に行きわたり、各学校の特別教育活動実践上の問題とを解明するいと口でも、拾い出していただくことができますならば、本会といたしましてもこの上もない喜びであります。さらに、この研究につきましても忌憚のないご指導、ご叱をおよせいただくことを念願して、あいさつにかえます。

目 次

1. 学級会活動	2
2. 児童会活動	29
3. クラブ活動	51
4. 編集後記	72

I 望ましい指導計画による実践事例

学級会活動の実践事例

学級会活動

研究グループ

1. 主題設定の理由

学級会活動は 児童の自発的自治的態度の育成をねらいながらも、具体的な指導の場面におろされてくると、教師の指導性の有り方、問題意識の持たせ方、学級内の人間関係などについて、さまざまな受け取り方をしている場合が多い。そこで事例を持ち寄り、検討し合うことによって、学級会活動における、指導上の問題点を掘り起すことが分科会の課題解決ではないかと考えた。

学級会活動は、その性質上、上から与えられたり、教師の下請的工作であってはならない。同時に、ひとりの子どもが、集団に埋没するようなことがあってはならない。個人からはじまり、全体へとひろがらなければならない。具体的には、「自由にものが言える話し合い」「少数の立場を考えて発言するような話し合い」などの活動となって表われるであろう。いわゆる、人間理解につながるものである。日頃の学級経営の中で、ひとりひとりの悩み、要求を受け入れ、集団思考によって解決していこうとする、協力、励まし合いの学級雰囲気、培われていることが必要である。それが学級会活動の効率を高めることになる。助言指導をどうしたらよいかという話し合いの中で、助言したために、児童の自発性が阻害され、実践活動が低滞したという事例が報告された。助言指導には、何のために助言するかのねらいがあるけれども、学年の発達段階や教師と児童との人間関係の有り方が適否を決める結果になるものである。また、児童の自主性を重んじる学級会活動は、手続きを大切にしなければならない。「きょうの学級会の議題は何ですか。」では、実践化まで高まらないであろうし、全体への関心を高めることはできない。学級会を開く以前の指導、いや実施計画以前の指導、すなわち、ひとりひとりの子どもが、問題意識を持つ指導なり、学級組織が十分指導されていないなければならないことである。それは、学級経営の中で培われていくことが必要で「さあ問題意識を持ちなさい。」といっても持つものではない、児童自身が意識を持つように、学級経営がなされていることである。

以上のような観点から、実践事例には、各学年の指導事例を載せたが、助言の有り方、展開の仕方は、学級の実態によって違うので、つぎの項目に従った。①学級の実態(学年の指導計画を踏まえて) … ②議題選定の経過(学級組織) … ③実施計画(助言) … ④学級

会のねらい、⑤学級会の流れ（助言） ⑥実践化（学級会後の活動） ⑦問題点について記載してある。紙数の関係から、細部に涉って、一時間の流れを記述することはできなかったが、読者の方に、上記のことをご考慮の上、ご判読され、ご指導を願いたい。

2. 実践事例

集会活動（1年）

(1) 学級の実態

指導計画では「教師を中心として集会の計画や実施計画をたてる」となっているが、その通りにしたのは2学期からであり、今回のが第2回目である。従って学級会での計画の話し合いも大へん幼稚であり、仮定的（想定的）な思考を要すると思われる。「計画をたてる」という活動は、かなり抵抗があると考えられる。特に時間的な面での計画は不可能に近いのではなかろうか。（要 助言）

誕生会の種目も、前回までは歌と合奏だけであり、しかも全員でうたったりする形式とともにバラエティに豊んでいなかった。指導計画では、「後半からグループの種目を」となっている。（要 助言）

係りも、司会だけで児童自身が運営する活動の場が少なかった。（要 助言）

(2) 議題設定までの経過

4月はじめから誕生会をもってきたが、朝や帰りの相談の時間に「誕生会はまだまだですか」という声が出はじめたのは、1学期後半からである。11月誕生会は、その声が出ないまま下旬にはいったので、臨時の学級会を開いて計画をたてることにした。

(3) 指導のねらい

その内容は幼稚なものであっても、この活動を通して、① 計画をたてて実践する態度 ② 協力して準備する態度 ③ 話し合いのしかた、を育てたいと考える。

また、話し合い活動としては特に種目のやり方をくふうさせることを重点とした。

(4) 実施計画

11月28日（火） 第3校時		
実	議 題	誕生会をしましょう。
	だした人	先生
	だしたわけ	みんなで誕生祝いをして、楽しくすごそう。
施	司会、記録	先生

11月28日(火) 第3校時	
話し合いのめあて	お誕生会の楽しいやり方をみんなで考え 誕生祝いをする。 1 あげるもの (おりづる)
話し合いの順序	2 どんなことをするか。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> 歌 } 合奏 } ゲーム } 紙芝居…… </div> <div> 前回提案があったがやらなかった。 前は全員でやったが、今回はできれば、グループ毎にしたい。 </div> </div>
	3 いつやるか (1週間ていど後 12月4日ごろ) 4 どこでやるか (教室) 5 係りや仕事をどうするか。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> 司会 用意係 プログラム係 </div> <div> 前回の反省でつくることになったもの それぞれの準備は分担して、休憩時としたい。 必要な材料は 担任が用意する。 </div> </div>
面	

注 ()内は、前回10月誕生会の反省をもとにして、担任のめやすとしてたてたものである。この方向に無理にもっていくという意図はないが、担任としてのめやすがあるってよいと考える。

(5) 学級会の流れ

教師 11月の誕生会の計画をたてよう。どんなことをきめますか。

略

教師 それでは 何をやりますか。

K夫 ハーモニカをふく。

S子 生まれた人にうたってもらってハーモニカをふく。

I夫 指人形をもってきてみせてあげる。

N子 みんなで うたう。

D子 紙芝居をする。

O子 生まれた人の顔をかく。

板書

ハーモニカ

うた

ゆびにんぎょう

かみしばい

え

教師 この中のどれにきめますか。(かってに発言してさわがしくなった)

助言 みんなが自分かってにいったのでは、きまらないよ。自分はどれをしたいのかを、自分できめてから手をあげなさい。

注 熱中してくると かってに意見をいはじめることが多い。話し合いのルールを守る習慣をつけたい。

F子 指人形とうたがいい。

N子 指人形と紙芝居をする。このまえ、うたをやったから。

助言 だいぶ指人形の人がいるね。やりたい人はどのくらいいるのかな。

注 また各自で希望種目をいうようになりそうなので、種目別に希望者数をとるという方法に気づかせたいと考えた。

——「手をあげてかぞえてみる」「多数決にする」などの声があり、種目別に挙手させて、その人数を板書した。その結果「うた、指人形、紙芝居」をやることに決まった。

教師 どのようにしてやったらいいかな。

助言 今までのように、いっぺんにみんなでうたったりいっぺんにみんなで指人形をやったりするのがいいかな。

注 どのようにやるかということは、児童には意味がよくわからなかったようである。グループ単位で演技をさせたいというねらいで助言した。

M子 うたのグループとか 指人形のグループとかに分けてやる。

助言 何人くらいずつでやるかな。はじめに人数を決めておいたほうがいいのはどれかな。

注 誰が何をやるかを決めるためには、まず人数を決めておいたほうがよいと考えた。特に指人形や紙芝居はあまり多人数でも少人数でも困る。

——指人形と紙芝居の人数を決めて、やる人を決めることになったが、指人形は決まったのに、紙芝居はやりたい児童が1人もいなかった。

助言 やる人がいないのでは、紙芝居はできないよ。

注 無理にやらせないで、今後の反省事項としてもよいと考える。

——けっきょく、やる人がいないので紙芝居は中止になり、うたのグループをつくることになった。「うたは 3～4人のグループにする」というので、

助言 ここで誰とやるなんてやっていたら、時間がかかってしょうがないね。何がいい考えはないかな。

注 3校時の時間も残り少ないし、生活グループ(4～5人)での活動にしたとを考えていたので、このように助言してみた。

F子 巢(生活研究グループのこと)でやればいい。

教師 さあ、いつ誕生会をやりますか。

M子 今週の土曜日 「来週の火曜」 「あした」

助言 指人形を作るんだよ。

注 指人形作成の時間を考えた児童がいなかった。少なくとも1週間は必要と考
えて助言した。

——指人形グループにきいてみることになり、指人形グループで相談させたら、会
週の土曜日にできます」というので、やる日は土曜日ときめた。

教師 係りはどんなのをつくりますか。

M夫 司会 O夫 用意する係

助言 10月誕生会で やるときに困ったことがあったね。

注 プログラムを作っておいたほうが、司会もやりいいしみんなもよくわかる
という反省を児童は忘れているようなので助言した。

I夫 プログラムをつくる。—————（3校時終了のチャイムがなった）

——このあと係りをきめ話し合いの反省をして終了した。

（紙面の都合上、助言を中心にまとめ、他は省略した。）

(6) 実践活動

① 準備期間

- 11月29日から指人形グループは、休憩時にとりの家庭科室をつかって、人形
の作成をはじめた。
- 11月29日の給食時間に、会場の席や舞台づくりについて その手順などを話し
合った。（学級会が時間ぎれで 相談できなかった事項をとりあげた）
- 12月1日の給食時間に、指人形の進行状態をきき誕生会を7日（木）に延期する
ことになった。プログラム係りに資料のあつめ方を助言した。
- 12月4日の休憩時に、プログラムの下書きをもってきたので、種目の順序やおち
ている事項を助言して かきなおさせて清書するように指導した。

② 誕生会 12月7日（木） 3校時 所要時間55分

- 司会の進行、用意係の準備で 児童主体の運営で会が進行した。とちゅう「こうま
グループ」のハーモニカ合奏がそろわなかったので「みんなはドレミでうたったら」
と助言しただけである。（誕生会の流れは略、プログラム参照）

- 反省（誕生会終了後 すぐおこなった）

教師 おわったから ちょっと反省しよう。

H夫 めがねさるというようにふざけない。

Y夫 ふざけたほうがおもしろい。(ほかにも同じ発言が多い。)

助言 H夫君のいうのは、どういふふざけ方はいけないといっているの。

注 指人形でかなり悪ふざけがあった。特に眼鏡をかけたO夫をめがねざると指人形がよんだりした。生活指導上もたいせつと考えた。

M子 人の悪口になるようなふざけ方をしない。

助言 1月誕生会は、こんどのように11月のが12月になったりしないようにするには、1月のいつごろ計画したらいいだろう。

注 準備期間を考えて計画をたてることに気づかせたかった。

助言 こんどのは計画をたててから何日かかったかな。

注 はじめの助言ではよくわからないようなので、今回のことを考えさせてみた。

—— この助言でやっと約10日前に計画をたてたらということになり、1月のなかごろに計画をたてることになった。

(5) ま と め

- ① 集会そのものは、稚拙ではあるが特に助言なしで、児童自身によって進行、運営できた。
- ② 児童自身はまだ時間と仕事量との関係がつかめず、準備に時間がかかり集会の日を延期しなければならなかった。計画の段階でのじゅうぶんな助言が必要であり、準備作業に対しても適切な助言指導を考えねばならない。

11月たんじょうかいプログラム

- 1 はじめのことば
- 2 うた(ばら)パーマン
オバQ
- 3 うた(うさぎ)ひのまる
ゆうやけ
- 4 うた(あさがお)
おもちゃのちゃちゃ
ひのまる
- 5 ゆびにんぎょう
M子 G夫 I夫 O子 A子
- 6 うた(きゃっと)たきび
ゆうやけ
- 7 うた(こりま)ともだち
ゆうやけ(ハーモニカ)
- 8 うまれた人 しりとり
- 9 つををあげる
- 10 みんなでうた
- 11 おわりのことば

- ③ 助言によって話し合いの方向が、かなり左右されてしまう。どこでどのような助言をするか「指導のねらい」をふまえて留意していきたい。

(話し合い活動) 3年

(1) 学級の実態

話し合いの活動で、自分から進んで発表する児童が全体の3分の1、指名されても、能力的な欠陥で、だまっただまっ発表できない児童が6分の1もいる。残りの者は、話し合いの活動の阻害条件をいくつか持っている。たとえば、一部の発言者に盲従し「賛成・反対」の意志表示だけしたり、相手の話の内容を聞きとる能力に欠けるために、その意見に対して、自分の考えをまとめられなかったり、話し合いの技術に欠けるため、自信がなかったりして、問題点を考えようとしなないことなどがあげられる。このために、話し合いが少数の意見に流されて、一方的な解決の方向に進まないように努めている。

男子17名、女子7名、計24名の少人数学級である。司会・記録は学期交代で再選をさせている。話し合いの問題点を前もって考え、整理しておくために学級会の個人ノートを使用している。

(2) 議題設定の経過

ア 提出された問題とその処理

5月26日の計画委員会で、仲よしポストに入れてあった問題群を次のように処理した。

- ① 学級の図書をせいとんしてほしい……本係で相談し、朝の会で話し合う。
- ② 誕生会をしてほしい……議題案
- ③ そうじ道具をせいとんしよう……せいとん係で相談し、反省会で話し合う。
- ④ 廊下を走らないようにしよう……朝の会で問題提出者から報告してもらい話し合う。

イ 議題の決定

ところが、放送部から、「学級だより」を3年生は、6月9日にやってほしいという申し入れがあったので、6月1日の反省会に、計画委員会から、「校内放送にするものをきめよう」と「誕生会の計画をたてよう」の2つの議題案を提出した。話し合いの結果、「校内放送にするものをきめよう」は、日時が迫っているため、6月5日の学級会の議題とし、「誕生会の計画をたてよう」は、6月12日でも間にあうので、12日の議題にすることに、全児童で決定した。

(3) 指導のねらい

児童の手で、みんなが楽しくできる誕生会の計画をたてさせる。

人の意見にとらわれなくて自分の立場で発言するようにさせる。

なお、留意点をつぎのようにおいた。

ア. 議長は、話し合いを進めて行く時、簡単なことは、平常発言しない児童に指名を多くして、なるべく発言を公平にする。

イ. 問題の解決が行きずまった場合、グループ毎の話し合いを行ない、問題を掘りさげた討議によって思考を深めるようにする。

ウ. 日時、場所は教師の方で指定するが、2つの案をだし、都合のよい方に決めさせる。

エ. するものは、個人的なものをさけ、小集団で行なうもので、創意くふうにとんだものをきめさせる。

オ. 人の意見を終わりまで聞き、少数意見を尊重させる。

カ. 教師の指導助言は、結論をさけ、共同思考を深めるようにする。

(4) 実施計画

ア. 6月9日 学級委員4名、提案者(集会係)教師の6名で計画委員会を開いて実施計画を作成し、学級会の話し合いの順序をどのように進めていくか話し合った。

イ. 実施計画の概要

議 題	たんじょう会のけいかくをたてよう。
提 案 者	集会係
話し合いの め あ て	お友だちのたんじょうをおいおいし、あわせて、楽しみ会をして、みんなが、楽しく、仲よくやっていたい。 たんじょう会がうまくできるように、会のやりかたやするもの、かかりをきめる。
話し合いの 順 序	① はじめのことば 議長 ② 議題のたしかめ 議長 ③ 議題をだしたわけの発表………提案者 ④ 話し合いの進め方 ア. 日時 イ. 場所 ウ. する時間 エ. するもの オ. かかり カ. これからの予定 ⑤ きめたことのたしかめ ⑥ 反省 ⑦ 先生のお話 ⑧ 学級会ノートせり
準備する資料	2年生で行なったたんじょう会の種目、 学級会個人ノート

	これからのよてい表。 たんじょう会の原案					
議長・記録	議長	野沢健太郎	黒板記録	堀 由美	ノート記録	杉山 早苗

(5) 話し合い活動の記録

議長 これから、第七回学級会を行ないます。きょうの議題は、「誕生会の計画をたてよう」です。

議長 はじめに、提案の理由を説明してもらいます。提案者どうぞ。

集会係 友だちの誕生日をお祝い、あわせて、楽しみ会をして、みんなが、仲よくやっ
ていけるようにしたいので提案しました。

議長 今、提案者から、提案の理由が説明されましたが、何か質問はありませんか。

全児童 ありません。

議長 これから話し合いにはいります。話し合いの順序を堀さんに発表してもらいま
す。

Y 子 きょう、話し合う順序は、日時、場所、する時間、するもの、いる係り、これ
からの予定です。

議長 今、堀さんから話し合いの順序について発表してもらいました。この順序でい
いですか。

全児童 いいです。

議長 つぎに、集会係から、原案の説明をしてもらいます。

集会係 これから、集会係で相談した原案を説明します。

原案	する日	6月22日(木)か6月23日(金)
	場 所	教室
	する時間	60分
	するもの	劇、合奏 合唱 手品 クイズなど
	かかり	司会 じゅんぴ係 プレゼント係

議長 今、集会係で相談した原案を説明してもらいましたが、これについて質問はあ
りませんか。では、ないようですから、初めに、いつするか日を決めます。いつ
したらよいですか、意見のある人はいってください。

M 夫 ほくは、6月22日は、5時間目に理科があるので、6月23日の金曜日に賛
成です。わけは、金曜日は、4時間で終わって5時間目からできるからです。

K 夫 ほくも、M夫君の意見に賛成です。5時間目から準備してできるからです。

する日については、この外、3人の発言があったが 全部23日金曜日の賛成意見であったので23日に決めた。

議長 つぎに、場所について決めたいと思います。原案は教室になっていますが 教室以外でやった方がよいという意見はありませんか。

A子 私は講堂がいいと思います。場所が広いし、合唱や合奏するにも、ピアノがあるからです。

A子以外に、講堂に賛成する意見が4人程あった。理由は、A子と同じものと、全員でするゲーム(いすとり、ハンカチ落とし)などができるからである。

教師 講堂の方が広くてよいわけですが、飾りつけなども考えて場所を決めたらどうですか。提案者は、どうして教室に決めたが、計画委員会で話し合ったことも聞いてらどうでしょう。

場所を決めるのに、種目だけでなく、会場のふんいきなど、そのほかのことも考えさせるようにさせたり、集会係で教室にきめたわけを発表させ考えさせる。

議長 計画委員会では、どうして教室に決めたのですか。

集会係 私たちの組の人数は24人ですから、教室でも十分できるし、誕生会だから、かざりつけもしたいからです。

議長 講堂と教室と両方の意見がありますので、グループごとにどちらがよいか話し合ってください。

各グループで話し合ったことを発表し、まとめた結果、講堂の方が全員でする種目やその外のことでよいという意見が多く講堂に決まる。する時間は、原案通り60分間にきまる。

議長 つぎに種目ですが、2年生の時やったものを参考に発表してもらいます。

集会係 2年生の時にやったものは……(資料を読みあげる)

議長 2年生の時にやったものを参考にして、今度の誕生会では、どんな種目がいいですか、意見をいってください。

教師 みんな、学級会ノートにどんなことをするか考えてきていますね。それもあわせて発表してみましよう。

学級会ノートに、各自が前もって種目について考えてきていることを記入しているので、それを発表するようにうながす。特に発言の不活発児の発言をさせるため。

- S 夫 ぼくは、数字あて、クイズ、合唱、合奏をしたらいいと思います。
- Y 夫 S君につけ加えて、好きですか嫌いですか、劇、ハンカチ落としをしたらいいと思います。
- T 子 わたしは、なぜなぞ、手品をしたらよいいと思います。
- M 夫 ぼくは、しりとりをつけ加えたらよいいと思います。
- 議長 もうありませんか、この中で決めていいですか。
- 全児童 はい。
- B 夫 ぼくは、手品をやめたらよいいと思います。種をあかす人がいるからです。それにやる人も少ないからです。
- 議長 今の意見は、手品をやめた方がいいという意見ですが、ほかにありますか。
- E 夫 ぼくも、2年生の時やったのですが、あまり面白くなくて、すぐ種をあかす人がいるのでやめた方がいいと思います。
- G 夫 ぼくも、手品はやめた方がいいと思います。準備もたいへんだし、細かいと見えない時があるからです。

「グループでやる」ということは、集団活動としての意味を持っているが、特定の子のやりたいという希望を生かしてやることも大切である。手品をしたいと思う人、また、その人を手伝ってあげる人はいないかと助言したが、過去の経験から、挙手をする者がいなかった誕生会がもっている教育的意味から、みんなで、もう一度考えてみるために保留の形にして、検討することにした。係り、これからの予定と話し合いは進行していった。

(6) 実践活動

ア 準備 これからの予定に従い、あくる日、種目別にグループを作って、放課後学校で練習を行なう。グループ別の発表の外に、全員でするゲーム(ハンカチ落とし、数字あて)の係りも決める。司会係は、19日プログラムを作り朝の会に発表する。

イ 誕生会 6月23日(金)5校時~6校時にかけて誕生会を行なう(準備を含めて)

(7) まとめ

誕生会を自分たちの手で計画し、運営することは今回が始めてであったため、誕生会の運営についての理解が不十分であったと思う。自分の意見が、はっきり言えるためには、事前に考えをまとめておくこと、そのため、学級会ノートを使って整理したことは効果があったと思う。人の話を最後まで聞くという態度や、実際の経験を通した生活から思考させて発言をすることは、会を積み重ねることによって、徐々に深めて行きたいと思っている。

係り活動（3年）

(1) 学級の実態

男25名、女17名、計42名で、4月に学級の編成がえがあり、担任もかわった。学級会は、計画委員が中心となって運営しており、計画委員は、毎学期4名が選出され（再選不可）、4名が毎月交代で、議長、副議長、黒板の記録、ノートの記録を分担し、任期中、必ず、議長とか、記録などの役わりを経験できるようになっている。

話し合いのときは、半数以上が活発に発言し、ほとんどの者が、理由を入れて意見をのべるようになっている。係りは、計画委員、集会、飼育、栽培、整美、新聞、図書、保健の8つがある。集会は、年間計画で、お楽しみ会3回、スポーツ会2回の計5回が決まっている。

(2) 議題設定の経過

1学期の終わりのときの、係りの反省会で、「このつきには、係りの自まん会をして、わたしたちの係りは、これだけやっていますよ。といえるようにしたらどうだろう。」という助言をした。

10月下旬の計画委員会で、「12月になるとお楽しみ会をしたいから、11月中に係りの自まん会をしたい。」という声にとりあげられ、朝の話し合いのとき、議題としてはどうかと提案があった。これに対して、「どのようにするか相談してから、自まん会をしたい。」という意見が出て、11月9日の学級会の議題は、「係りの自まん会の計画をしよう」とすることに決まった。このときの学級会では、発表会の座席配置、発表順序、内容の形式が決まり、次の学級会（16日）の議題は、「係りの自まん会をしよう」ということも決まった。各係りでは、放課後などに自まん会に発表する準備をはじめた。

(3) 指導のねらい

それぞれの係りの活動が、学級の向上に役立っていることに喜びをもたせ、各係りの活

動が、さらに活発になるように話し合わせる。

(4) 実施計画

	3年2組 第20回学級会 11月16日(木) 第5校時	
議 題	係りの自まん会をしよう。	
係り分担	議長 T子 副議長 M男 黒板の記録 I郎 ノートの記録 K子	
提 案 者	M男 (計画委員)	
提 案	前の週に「係りの自まん会の計画」を話し合い、準備をしてきたので、き	
理 由	ょう、「係りの自まん会」をして、もっと係りの仕事を楽しくやりたい。	
話 し 合 い の め あ て	係りでよくやっているところをほめ、まだ、たりないところをみんなをい ってやり、係りの仕事が、もっとよくやれるように話し合う。	
話 し 合 い の 順 序	1 開 会	指 導 上 の 留 意 点
	2 提案理由の説明	
3 話し合い		
(1) 各係りからの発表 (係りの表の順)	○資料を使って、係りでやったことを わかりやすく発表させる。	
(2) よくやったところ、こうす ればよい、というところにつ いて	○係りでよくやったところをほめ、建 設的な意見を出させる。 ○相互評価をさせる。	
4 まとめ(記録の確かめ、反省)	○係りの向上のための意見を 確認させ る。	
5 閉 会		
資 料	各係りで、今までにやったことをわかりやすく書いた表。学級新聞。	

(5) 学級会の流れ

話 し 合 い の 流 れ	
議長	今から第20回学級会を始めます。起立、礼。M男君、提案したわけをいってください。(M男より提案理由の発表があり、質疑はなしで進んだ。)
	これから、各係りから発表してもらいますが、みんなは、よく聞いていて、係りでよくやったところ、その係りは、こうしてやってもらいたいということがあったら、あとで言ってください。では、計画委員から発表してください。
K子	わたしたちは、計画委員会を7回やって、学級ポストの返事をかいたり、学級会の計画を立てたり、学級会の議長や、記録を交代でしました。これからも、いっしょけんめいやりますから、どんどんポストに投書してください。
議長	今の発表に対して、言いたいことはありませんか。
A男	1学期の人にくらべて、議題をどれにするか早く出してくれたのでよかったです。それから、計画委員の人は、学級会のときもうまくやったと思います。

N子 たいていこのとき、時間がのびないで、学級会が終わってよかったと思います。

議長 ほかになければ、計画委員はどうでしたか。(たいへんよくやったとの声多数)
次に集会係から発表してください。

T男 集会係は、松添先生(教育実習生)のおわかれ会をしました。それから、雨の日の
昼休みに、ゲームを4回しました。ハンドベースボールのとき線をひきました。今は、
お楽しみ会の計画を考えているところです。

D夫 おわかれ会はうまくいったが、みんなが協力してやったからで、係りとしては、あ
まりやらなかったと思います。

S男 雨の日にゲームをやるようにしたのはよかったが、ゲームの説明がよくわからない
から、前もって考えておいて、わかりやすく説明してほしい。

T男 こんどから気をつけます。

U子 ゲームのとき、うるさかった。みんなも悪いので気をつけた方がよいと思います。

F夫 ふざけたのは、ぼくたちも悪いけれど、係りの人もふざけていたので、こんどから
ふざけないでもらいたい。

議長 集会係に対してどう思いますか。(ふつうより少し悪いという声が多数)
次に飼育係から発表してください。

H子 飼育係は、金魚を持ってくるお願いを2回と、金魚を1回買いに行きました。水そ
うの水がえは3回、えさやりは毎日しました。係りのロッカーの整とんは6回やりま
した。

E子 えさを忘れないでやったのはいいと思います。

P子 金魚や水草を寄付した人がいたのは、よかったと思います。

F夫 水がえのとき、先生に言われなくてもやるようにすればいいと思います。

O子 病気の金魚を別にして、なおしたのはよいが、ほかの人にいわれないうちに、気が
ついてやるようにしてください。

H子 先生にいわれないうちにやったときもありました。

議長 飼育係はどうでしたか。(ふつうという声が多数) 次に栽培係お願いします。

N江 栽培係のやったことを発表します。わたしたちは、ヘチマの観察日記をつけました。
キクの鉢うえと、毎日の水まきをしました。それから、じょろなどの整とんをしまし
た。これからは、水さいばいの観察をします。

M夫 キクにアブラムシがついているので、先生にきいてとった方がいいと思います。

Z郎 もっとかわいがるようなやり方をした方がいい。

助言 よくやったところはなかったのですか。

註 欠点だけの指摘で終わりそうだったので、よい点を言うようにさせた。

議長 よいところについていってください。

M子 花だんのようすや、へちまのようすを朝の話し合いのとき、みんなに言ってくれたので、観察日記をつけ忘れたときなど助かりました。

議長 栽培係のやったことをどう思いますか。(ふつうという声が多数)次は整美係。

K子 わたしたちは、整美係として、ロッカーやげた箱の名札をつけました。机やいすの名札の紙を用意して、はがれた人にかいてもらいました。それから、花びんの水かえ7回、ごみすて5回、かさの整とん5回、絵のはりかえを3回しました。

T男 名札をつけてくれてよかった。

S子 かさの整とんを忘れないうでやったので、いつもきちんとしていた。

F夫 花びんの水かえは、毎日やった方がいいと思います。

E子 落とし物を渡しても、あずかってくれないので、こんどからあずかってください。

K子 こんどからそうします。

議長 整美係はどうですか。(ふつうより少しよいの声が多数) 新聞係どうぞ。

O男 (1~7号)までを見せながら)はじめは、切りぬきをはったのが多かったが、だんだん自分たちで書くようになりました。14回も残って仕事をしましたが、そのときにじゃまをする人がいるので、今度から気をつけてください。

A男 朝の話し合いで、ニユースを言わない日があった。

A夫 学級新聞だから、もっと学級のニユースを多くしたらいいと思います。

P子 字の読みにくいのがあったけれど気をつけてください。

議長 新聞係はよくやりましたか。(ふつうより少しよいの声が多数)

助言 みんなは、新聞係の出した新聞をみて楽しかったかしら。(楽しかったとの声多数)毎週かくというのは、たいへんだったと思います。先生はよく続けて出したなあと思うだけけれど。議長さんもう一度、みんなに聞きなおしてくれませんか。

註 3年2学期の新聞係の活動としては、とてもよくやったし、活動のようすも、係り活動本来のいき方を示していると思ったのに、児童の相互評価では、ふつうより少しよいということだったので、再度、評価させた。

議長 もう一度聞きます。新聞係はどうでしたか。(たいへんよくやったの声が多数)次に図書係から発表してもらいます。

M夫 ほくたちは、お願いのポスターを作りました。本の整とんを毎日やりました。学級文庫の貸し出しは、週に2回しました。図書係で本を返すとき、乱暴な人がいるのできちんとしてください。

D夫 いつも学級文庫がきちんとしていて、よかったと思います。

U子 貸し出しは、たいへんだと思うが、貸し出し日を多くしてください。それから、借

りられる日を長くしてください。

議長 図書係はどうでしたか。(たいへんよくやったの声が多数) 次に保健係どうぞ。

M子 保健係は、黒板に出欠をつけたり、出席カードを毎日出しました。窓のあけしめに
気をつけて、日直が忘れたときにやりました。けがをした人や、病気の人を保健室に
つれていきました。ポスターとして、うがいと手洗いのことをかいてはりました。

H子 カードを忘れるときがあるから、忘れないようにした方がいいと思います。

T男 前に、健康日記をつけるといったが、どうなっているんですか。

M子 やっていません。これからつけるようにします。

K江 ポスターをくふうした方がいいと思います。

議長 保健係はどうでしたか。(ふつうの声が多数) 時間がないので、書記からのまとめ
はやめます。先生の話で終わっていいですか。(全員「いい」との声)

助言 きょうは、どの係りも、発表したいことを表に書いたりしておいたので、時間の
びず、わかりやすくよかったと思います。

各係りの、よいところ、こういうふうにやれば「たいへんよい」になれるというよう
に考えて、たくさんの方が意見を出したのは、とてもよかった。「たいへんよくやっ
た」という係りは、これからも、今の調子で続けてください。「ふつう」といわれた係
りや、「もう少し」といわれた係りは、これから、どのようにすればいいか わかっ
たと思いますから、これからもがんばって、どの係りも「たいへんよくやった」とい
われるように、係りで協力したり、くふうしたりして、がんばってください。

議長 これで、きょうの学級会を終わります。

(6) その後の実践活動

各係りとも、「係りの自まん会」が刺戟となって、活動が活発になった。3学期には仕
事の内容が検討され、飼育と栽培が、飼育栽培係に、整美と保健が、清潔係というように
統合がみられた。また、新聞係は、希望者が多かったので、新聞係AとBに分かれ、A B
が競争して、一週間に2回も発行するようになった。

(7) ま と め

係りの反省会という、各係りに対しての欠点のみが強調され勝ちなので、「係りの自
まん会」ということにしてみたが、係りごとには、実践とその記録を重視することに気づ
き、他の児童は、その係りが、「たいへんよい」というようにするために、どうすればい
いかを、相手の身になって考えるようになったので、当初の指導のねらいが、予想以上に
達成できたのではないかと考えている。

話し合い活動 (4年)

(1) 学級の実態

学年はじめに再編成がなされ、担任も交代。男20名 女18名 計38名

運営委員は前、後期の二期制で、每期4名が選出され再選は認めない。毎回4名が交代で、議長、副議長、書記(黒板、ノート)を分担してやっている。

話し合いでは、全般的に素直でよく考え実践しようとする面が見られるが、発言は男子にかたよる傾向がある。係りは、運営委員、広報、図書、飼育、放送、保健、運動、の7つである。集会は、年間計画で、お誕生会4回、ボール大会1回が予定されている。

(2) 議題設定までの経過

① 提出された問題

議題箱から「いやがるあだ名をなくそう」保健係から「衛生検査のこと」図書係から「学級文庫のきまりを考えなおしてほしい」といった三つの問題であった。

② 問題の整理

放課後プログラム委員会(運営委員4名、提案者3名、教師)を開き、相談した結果、「いやがるあだ名をなくそう」朝の会で話し、「衛生検査のこと」は保健係で相談し、再度朝の会で話し合うことにして、学級分管図書として、新刊図書が入ったので、この際ルーズになってきたきまりを考えなおしてみることにしようということで「学級文庫のきまりを考えなおしてみよう」という議題がとり上げられた。

よく日の朝の話し合いで、運営委員から議題と実施計画を説明し、学級全員にはかり、学級会の議題として決定した。

(3) 指導のねらい

本のかしだしは、はじめきまりが守られていたが、途中から守られなくなった点を明らかにして、改めていこうとするところに目を向けさせる。

発言が限られる傾向にあるため、全員が話し合いの場をもつようにし、個人攻撃的にならず、係りの者に理解ある態度で発言し、実践に一步一步進んでいく態度を養う。

(4) 実施計画

4年 1組

5月14日(木)		第5校時
議 題	学級文庫のきまりを考えなおしてみよう。	
提 案 者	図 書 係	

提案理由	学級文庫を利用している人がこのごろ少なくなり、新しい本も入ってきたので、きまりを考えなおして、多くの人に読んでもらうようにしたい。				
話し合いのめあ	本のかしだしがうまくいくようにする。				
議長	福山	副議長	物江	書記	和田・谷本
準備	いままでのかしだし表 ・ 記録帳				
話し合いの進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ ○提案理由のせつめい ○提案についてのしつもん ○話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・いままでのきまりについて ・かしだしをする日数とかしだしをする日について ・図書係の分たんはどうしたらよいか ・同じ本を多数でかりたいときはどうするか ○まとめ（記録の確認・反省） ○あいさつ 				
私の考え					

(5) 学級会の流れ

副議長 これから第六回学級会をひらきます。

議長 議題は「学級文庫のきまりを考えなおしてみよう」について話し合います。

〃 図書係に提案理由をいってもらいます。

図書係 いままでのきまりがまもられていないし、利用する人も少なくなってきました
○そこで、新しい本も入ったことだし、きまりを考えなおしてできるだけ多くの本をよんでもらいたいと思います。

議長 質問ありませんか

〇夫 新しい本はどれ位入ったのですか

図書係 童話が12さつ、理科図鑑8さつ、社会事典6さつ、国語辞典などです。

議長 ほかにありませんか、では、いままでのきまりをいってください。

図書係 ○かりる本は係りにいって、かしだし表に書名を記入してもらってからかりる。
○かりる日は自由。 ○かりた日から2日間でかえす。

議長 いままでのきまりでみんながこまったことはありませんか。

H子 2日間でかえすことは、すくないのでよくよめませんでした。だからもっと多

くしてもらいたいと思います。

T 子 わたしも一度かりたけれど、物語は2日ではむりでした。

M 夫 ぼくも少なすぎると思います。

議 長 2日間でかえすことに無理があるようですから、そのことから話し合います。
では、どれくらいの日数がよいですか。

Y 夫 3日間くらいがよいと思います。1さつの本をたくさんでよめるから。

B 子 4日間くらいが童話でもよむのによいと思います。

U 夫 6日がちょうどよい。

S 子 5日間くらいが1さつの本を多くの人でよめるからよいと思います。

F 子 あつい本がよめるから、わたしも5日くらいがよいと思います。

議 長 いままで、3日、4日、5日、6日とでています。ほかにないようですから
きめていきたいと思います。

3日間に賛成の人 4人

4 " 5人

5 " 22人

6 " 3人

議 長 かしだしの日数は、5日間ときめます。

O 夫 5日では感想文をかきたい時にかけないから、6日がよい。

Y 夫 あつい本がよめないから反対です。

助 言 感想文のことまで考えていっていることは大変よいことですが、いまの話し合
いで5日間ときまったね。だから実際にやってみて、こまったらまたきまりを考
えなおしてみよう。

注 O夫は、よく発言する子であるが、ともすると自己中心なので、一つのルールに
従って生活していくことの大切なことを考えさせ、みんなで考えたきまりを実践
してから考えなおしてみるようにさせたい。

議 長 つぎにかしだす日を決める問題について話し合います。

A 夫 毎日がよいと思う。よみたいときにいつでもよめるから。

G 子 それでは図書係が大変だと思います。

M 夫 図書係を2つのグループに分けてやれば、すこしでも大変なことがはぶけるの
ではないかと思います。

T 子 図書係は何人いるのですか。

図書係　いま4人でやっています。

K　子　かしだす日をきめた方がいいです。4人ではたいへんだから。

W　子　図書係がわかれてやれば、その当番の時だけでよいから毎日でもできると思います。

I　夫　かしだす日をきめてあると、かりるときにところがよいです。

F　子　もし毎日だと用事があっても、係が残ってやらなければならないからわるいと思います。だから決める方がいいと思います。

議　長　ではかりる日を決めることにしてもよいですか。

全　員　いいです。

議　長　いつがよいですか。

U　夫　火曜日と金曜日がよい。土曜日と日曜日にゆっくりよめるからです。

T　子　わたしもU夫さんのいけんにさんせいです。

議　長　ほかのいけんはありませんか。

〃　　ないようですから、では火曜日と金曜日にかしだすことにします。

〃　　同じ本を多くの人がかかりたい時はどうしますか。

N　子　順番をきめればよいと思います。

O　夫　その人たちで話し合ってきめればよいと思います。

G　子　じゃんけんできめたらどうですか。

C　子　2日ずつにすればよいと思います。

助　言　いろいろと意見がでています。みんなは、じぶんがそりなつた時を考へてよく自分の考へをまとめてごらんなさい。

注　しばらく話し合いがとぎれたようなので、いろいろでた意見をもとに自分の意見が考へられるようにさせたい。
--

議　長　いろいろ意見がでましたが、どのようにしたらよいですか。

T　子　いままでのなかからきめていったほうがよいと思います。

Y　夫　話し合ってきめるほうがよいと思います。

N　子　その人たちで話し合って、順番をきめればよいと思います。

議　長　いまN子さんがいったように決めてよいですか。

全　員　いいです。

議　長　係の分たんはどうしていますか。

図書係　係の仕事はわけてやっていたのですが、わすれてやらないことがありました。

T 子 学級文庫の本をせりりしたり、本をしょうかいしたりすることがあると思います。しっかりやってください。

S 子 係ではなし合ってきめればよいと思います。

O 夫 ぼくも係できめたらよいと思います。

議 長 では、図書係にきめてもらうことにします。

M 夫 5日たってもかえさない人はどうしますか。

I 夫 1度かえしてまたかりればよいと思います。

G 子 図書係が注意すればよい。

議 長 このことは図書係が注意することにして、どうしても守れなくなれば また相談することになります。

〃 では いままでのことをまとめてもらいます。

書 記 (学級会ノートの記録より、決定事項を確認する)

議 長 では、これで学級会をおわります。

(5) 実践活動

- 図書係が、決った次の日学級文庫のコーナーを教室の隅に設けてよいかききにくる。
- 大変よいことです。しっかりやるようにといろいろ計画したことをきいて、意見をくわえてはげます。
- 2日後、新刊図書の書名や簡単な内容を紹介してコーナーにはりだした。
- 1週間後の水曜日の朝の相談の時間に、図書利用表を発表して、学級全体に読書の関心が高まるように働きかける。
- 次の日、図書係が、読書感想文の募集箱を作った。朝の会で全員にしらせる。
- 2日間たって、3通の感想文が入ったことを知らせる。
- 読書感想文の中から、学級全員の意見で(朝の会で相談)毎週三点ずつよくかけていたものを選んで(全員)、学級児童会の賞として、だすことになる。
- 印刷された賞状を帰りの反省の会を利用して係からわたし、みんなでほめている。
- 学年末に全員の感想文をまとめた文集をだそうということに話し合いが発展し、そのようにしようということにまとまった。

話し合い活動(5年)

(1) 学級の実態

男28名 女18名 計46名

本校の指導計画でおさえているのは、「創意くふうを生かした学級会の自主的運営」という目標である。したがって5年の学級会活動は、これまでの経験の上に立って、教師の助言、援助をあまり受けずに、自分たちの力で、より高度に、より自主的に活動させたい。としている。また5年生では、学校児童会の担い手でもあるので、その行動は全校に影響する。そこで特に児童会活動に目を向けさせ、6年と協力して、学校生活を楽しくするよう努力させることも、高学年として重要なことであると考えている。

本学級は、話し合い活動を中心にして、活発であり、なれていると思うが、人数がやや多いといううらみが、集団思考の中に目立つ。しかしながら係り活動の場合は、たいへん好都合である。男にくらべて女が活発であり、人数の大差が目立たない。

係りは、レター板係り、アイデア係り、新聞係り、飼育係り、整美係り、保健係り、図書係り、給食係りがある。集会は学期一回を原則としている。

(2) 議題選定までの経過

2月7日の議題委員会に集まった問題を整理、統合してみるとつぎの三つであった。

- ① たのしみ会をしよう。 ② 学級文集をつくろう。 ③ 6年生を送る会 の劇をどのようにしたらよいか。

であった。その際②と③が話し合いの中心になり活発に主張し合った。ところが③の問題は代表者会で話し合われ、すでにきめられたことであり、代表委員の強い要望が入れられ、③を議題として取り上げることになった。

(3) 指導のねらい

提案の内容がよくわかり、それに対する自分の意見や修正意見をはっきりのべられるようにする。

(4) 実施計画

議 題	「六年生を送る会」の劇をどのようにしたらよいか。
提案の理由	2月5日の代表者会で「六年生を送る会」を3月中旬に開くことが決定した。5年3組に劇に出演することになったが、その準備や練習の計画をみんなで話し合ってきたほしい。

話し合いの 目 点	3月中旬に予定されている「六年生を送る会」に出演する劇の練習計画を話し合っ、みんなが力を合わせて劇ができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○議題をたしかめる。 ○「六年生を送る会」について、すでにきまっていることをたしかめる。 ○提案理由及び提案内容の説明 ○話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・提案に対する質問 ・脚本の選び方と印刷 ・配役について ・舞台道具や照明効果 ・練習日程

(4) 学級会の流れ

司 提案者、きょうの提案の理由と原案の説明をしてください。

提 (模造紙にかいた要項を説明する)

司 提案の内容が多いので、一項目ずつ話し合いを進めていきたいと思ひます。第一項目の脚本のきめ方についての質問はありませんか。—— ないようですから意見にはいりません。

I 夫 脚本を選ぶ係りが5人では多すぎると思ひます。意見がまとまらなくなると思ひるので3人でよいと思ひます。

S 子 5人の方が意見が多く出るので5人の方がよいと思ひます。

Y 夫 男2, 女2名ずつがよいと思ひます。

H 夫 質問ですが、脚本をえらぶ係りは選ぶだけか、それとも脚色をくふうするまでやるのですか。

林 脚色をくふうして、清書までします。

H 夫 Iさんと同じ3人ぐらいの方がよく意見がまとまると思ひます。

脚本のえらび方について、もっと話し合わなくてはいけないのに、係の人数の方に話し合いが移ってしまいましたね。このへんで司会者がまとめてください。

司 いろいろ意見が出ましたが、他に意見はありませんか。—— 意見がなければ決をとっもよいでしょう。—— 決をとる。この案についてはYさんの男2名, 女4名で脚本をえらぶことになりました。

T 子 誰と誰がやるのですか。それをきめた方がいゝと思ひます。

それをこゝで話し合っていると時間がかかると思ひるので、きょうは人数だけ決めておいて、だれにやってもらうかは、朝の話し合いの時決めたらどうでしょう。—— 賛 成 ——

司 脚本の決め方は原案通りでよいでしょう。—— 原案通りでは次の脚本印刷の方法にうつります。質問、意見はありませんか。

A 夫 がりばんより，リコピーの方がかんたんでよいと思います。がりばんでは時間がかかりますからね。

N 子 リコピーは学校にないので，がりばんで，みんなで手分けしてやった方がいいと思います。

D 子 N 子さんの意見にさんせい。

O 夫 前にお友達の家のリコピーをかりてやりましたが かんたんでとてもよかった

司 このクラスで，リコピーをかしてくれる人がいるのですか。

M 子 わたくしのうちにあります。兄にたのめばやってくれると思います。

H₂ 子 借りられるならリコピーの方がよいと思います。

司 借りられるならリコピーですること決めてよいでしょうか。——さんせい——ではつぎに配役のきめ方にうつります。質問はありませんか。

U 夫 配役委員には委員長，副委員長もはいるのですか。

林 はいりません。

H₃ 子 配役委員の中から出演者を出すのですか。

林 そうとはかぎらない。むしろ配役委員以外の人×のぞましいと思います。

S₂ 夫 配役委員はどうやってきめるのですか。

林 各グループから一名選んでほしいのです。

司 他に質問はありませんか。——質問がなければ意見にはいります。

H₃ 子 委員会のまとめ役として，委員長にはいってもらった方がよいと思います。

T₁ 夫 その会には先生もはいていただいた方が配役がうまくいくと思います。

U 夫 わたしたちから出た意見でする会なので，わたしたちの手だけでやっていきたいと思っています。

たいへん いい考え方ですね。ここまで相談をしてきたのですから，みんなの考えをあつめてなるべくいい方法を出してください。

また，今までの話し合いの中で，質問と意見がはっきり区別されていたのはよかったですね。

S 子 U さんの意見にさんせいです。それから委員長ははいてもらうことにさんせいです。

司 他に意見はありませんか。

I 夫 各グループから1人ずつでたのでは多すぎはしませんか。その半数ぐらいでよいのではないのでしょうか。

T₂ 夫 ほくは各グループから1人ずつの方がよいと思います。——さんせいの声あり

司 委員長は、はいった方がよいのですか——はいった方がよいの声がある。
では、各グループで話し合って2名ずつ配役委員を選んでください。

(各グループ毎に話し合いはじめる。) 以下省略

おもな質問や意見	きまったことから
<ul style="list-style-type: none"> ○脚本をえらぶ方法と人数を決めるとよい。 ○脚本の印刷は、がりばんでなくリコピーがよい。 ○配役決定には、先生にはいってもらった方がよい。 ○この会は自分たちの計画したものだから私たちの力だけでやりたい。 ○配役委員のまとめは委員長がしてほしい。 ○配役はよく考えて公平にやってほしい。 ○土曜日の練習はさげたい。 ○日程で読み合わせの時間が長すぎる。 ○上げいこの時間が短かすぎる。 ○読み合わせの時間が十分あるので原案通りでよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○脚本集の中から選び、脚色にくふうを加える。(男2, 女2) ○Mさんの家のリコピーをかりる。(Mをふくめて男女各2名) ○配役委員会を作る。(各グループ1名) T子, S夫, A夫, Y子, E子, M夫, U子, H子, Y夫, O夫, I子 ○練習は、月、水、土の放課後30分間 ○舞台道具係(男5名, 女2名) ○照明効果係(男5名) ○練習日程 原案通り

(5) 実践活動

集会活動に対する熱意は、他の活動にくらべると非常に高く、ひとりひとりの児童が、興味と関心をよせて、すべての活動に協力的である。

このように決定されたことを中心にして、それぞれの責任をよくやりとげていった。

- リコピーを借りる、ということについては、どのように指導すべきか考えたが、家庭の方から協力方の連絡を受けたので借りることにした。
- 練習は、放課後30分という時間的條件もよく守れて、しかも短い時間にしては、まとまったものができた。
- 配役委員会は、劇の内容をよくつかみ、適材適所に能力を生かした割当方でよかった。
- 自分の仕事や役割を自覚して、ねばり強く確実に果たす能力を養うことができた。
- みんなが協力して、毎日の積み重ねがあったのはよかったが、部活動や係り活動等に支障があった。
- 当日は、今までの積み重ねの効果があらわれ、まとまってよくできた。他の組との連絡

もよくとれていた。

○何事にもいえることであるが、過程がたいせつである。

(6) ま と め

前に述べた「創意くふうを生かした学級会の自主的運営」という目標に下記のようなねらいで迫ろうとしている。

1. 高学年としての地位に自覚をもたせ、自分の学級や学年ばかりでなく、全校的な面に目をむけ責任のある行動をとるようにする。
2. 学級のひとりひとりが仲間や学級のことを考え、当面した問題を積極的にしかも筋道のたった解決ができ、実践活動が身につくようにする。
3. 集会活動を行なって互に交友を深めると共に、目的に応じて企画運営し、進んで参加できるようにする。

さらにこれを深めていこうとすれば、話し合活動が大きく実践活動の活発、不活発を左右するという考えになってくる。そこで

1. 学級会活動が活発であるということは、実践活動ならびにそれにつながる過程の中でたいせつなことは、話し合活動がうまくなされているかどうかということである。
2. 話し合活動は、つねにつきの係り活動、集会活動が活発であることを予想してなされるし、係り活動、集会活動が活発であることは、話し合活動が活発になることである。
3. 話し合いで計画ならびに解決の方法が決定したならば、それを放置せず、その実態を詳細に記録し、それを手がかりに、つぎの学級会などでくりかえし検討し、反省を加え進んだ考え方や、解決策に興味をもって見いだしていくことによって実践力が高まる。

○ 評価は指導上欠かせないものであることはよくわかっているが、一般教科にくらべて、困難点が多い。しかしながら指導計画とのかねあひにおいて実施しなければ効果はあげられない。

- | | | |
|------|-------------------------------|-------|
| (児童) | 原案を示して提案する要領は理解できたか。 | 事前の活動 |
| (教師) | 原案作成についての指導はなされているか。 | |
| (児童) | 原案の一つ一つについて、つっこんだ意見の交かんができたか。 | 話し合活動 |
| (教師) | 指導助言の機会は適切であったか。 | |
| (児童) | ひとりひとりが役割を認識して力を合わせてやりとおせたか。 | 事後活動 |
| (教師) | 練習についての配慮はなされたか。 | |

とくに評価についての研究は今後重点的に積み重ねる必要がある。

今後の問題点

実践事例を低中高の各領域にわけて討議を重ねた。当初予定していた、学級の実態によって、どんな助言指導がなされたか。また一時間の学級会の時間内に展開された学習が、その後どのように実践化へと進んでいったか。その実践化は、どのように指導されて、進められたか。そして指導助言と実践化の関連はどのようにしたか。明確に表現されなかった。

しかし、指導計画が整備され、一時間の学級会をどのように展開されたらよいかの手續きがはっきりしているように思われる。互いに特活の本質については、理過しているのだが、実際の学級会の授業はむずかしいもので、この一時間の学級会の話し合いが、どれだけ特活の本質にそって、展開されたか疑問である。実践例の中にも、十分論じられないままに終わってしまったように思われる特活は急に始めても、効果は期待できるものではない、一時間一時間を大切に積み上げることによって、効果は期待できるのであろう。この実践例も、一時間の授業をどのように進めるかを、学年に応じて示したもので、その過程で、特活の問題点である、指導助言の有り方、評価、時間の取り方を解決していかなければならないであろう。

研究時間の不足と、研究会ごとと替る部員のため、十分な研究討議ができず、十分に意を尽くした事例の集録ができなかった。読者のご指導を願います。

執筆者

学級会部会	部長	港区立桜小学校	渋谷	昇
	副部長	文京区立湯島小学校	田中	和一
	全	豊島区立池袋第三小学校	河原	俊夫
		港区立神明小学校	小野	真澄
		目黒区立上目黒小学校	木村	将
		港区立桜田小学校	河野	恒明

Ⅱ 望ましい指導計画による実践事例

1 研究計画の歩みと問題点

児童会活動
研究グループ

世田谷区立 塚戸小教諭 北村孝夫

1. 研究の歩み

都特活の第1回の幹事会が、10月17日(火)に開かれ、10月30日に役員と世話人の会が開かれ、本年度の研究テーマが、望ましい指導計画をふまえた実践事例に決まった。そして、41年のテーマ「特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画をふまえた、実践に取り組むことになった。

その後、11月27日、12月8日、12月21日、1月16日、1月26日、2月3日の6回に亘り、午後3時から午後7時頃まで、事例について話し合い、討議し、研究を続けた。昨年1回の出席平均が6人であったのに比べ、本年度は8名にふえ、多い時は、33名中11名に達した。年ごとに、僅かながら関心も高まり、次第に充実して来ているようである。

2. 研究の小テーマと問題点

児童会活動実践事例には、代表委員会の話し合い、各部活動の実践事例、集会活動の実践事例などが含まれる。そこで、本年度は、各部活動の実践事例を除いた研究をまとめたらよいだろうということになり、つぎのような小テーマが提案され、研究することになった。

- (1) 定例児童集会の計画と実践をどのように進めたか。(板橋 松野教諭)
- (2) 校庭の遊び方をくふうしようという議題をめぐって。(渋谷 宇賀教諭)
- (3) 「ドッジボール大会を開こう」について話し合いから終末まで(台東 今井教諭)
- (4) 送別球技会における児童の意識と教師の役割について。(世田谷 小泉教諭)

事例の話し合いに出た各区の問題点などをまとめると次のようである。

- (1) 代表委員会の時間がなかなかとれにくい。(N区)
- (2) 児童の問題意識が高まらない。(N区)
- (3) 教師の共通理解、とくに特活への関心や人間形成上特活の占める意義が十分に理解されていないで困る。(B.N.H.S区など)
- (4) 特活は集団活動の実践場面であるのに、児童の個人の意識や集団の意識が活動を通して

高まり，質的に変わっていく過程がとられにくい。(S.M区など)

このような問題点をはらみながら，4つの小テーマについて，1つ1つ審議していったので，それぞれのテーマについて紹介しよう。

2 定例児童集会の計画と実践をどのように進めたか

板橋区 大矢口小教諭 松野彰夫

1. 児童朝会についての考え方と位置づけ

(1) 特別教育活動と学校行事等との関連

児童朝会は学校行事等に位置づけられる一般的な朝会と，特別教育活動に位置づけられる定例的な集会とに大別することができる。

学校行事等における朝会は，教師が計画し実施していくものではあるが，児童の自主的参加が必要である。特別教育活動における児童朝会は，児童が計画し実施していくものであるが，教師の指導助言を欠くことはできない。

両者の関連としては，どちらが主体となる朝会であるかを明確にすると共に，それぞれの特質を生かしながら運営していくことがたいせつであろう。

(2) 朝会の種類と位置づけ，週時程のとり方

1週間の学校生活の中で行なわれる朝会は，どのようなものが必要であるか。生活のリズムなども考慮しながら，つぎの表のように位置づけた。

音楽集会は過度期として学校行事等に位置づけているが，序々に特別教育活動における集会へと移行していくように考えている。

朝会の種類と週時程のとり方

曜	朝会の種類	時間	備考
月	全校朝会(行事)	15分	職員朝会 5分
火	朝の話し合い(学級)	10分	〃 10分
水	音楽朝会(行事)	15分	〃 5分
木	体操朝会(行事)	15分	〃 5分
金	朝の話し合い(学級)	10分	〃 10分

〔備考〕

月末の土曜日は，校外地区別児童集会として，地区別代表委員会(特活以外の位置づけ)の運営による集会にあてる。

(3) 教師の指導方針

ア. 朝会の時間は毎日20分の余裕をみたいが，1日の生活時程からみて10分以上とる

ことはむずかしいので、職員朝会の時間の調節を図り、1校時にくいこむことのないように配慮した。

イ．職員朝会の時間の減少によって、毎日の教育活動がマイナスにならないようにするために、伝達用の黒板や掲示板の活用を図った。これによって、緊急の用件だけの打ち合わせが短時間で済むようになった。

ウ．どのような朝会の場合でも、整列が自主的に速くできるように指導の徹底を図った。

2. 授 業 研 究

(1) 議 題 土曜集会のやり方をくふうしよう

(2) 運営委員会のようす

ア．問題の発見

代表委員会の2週間前に開かれた運営委員会に「このごろの土曜集会はつまらないので、やり方をもっとくふうしてほしい」という問題が5、6年から出された。他に提出された問題は、伝達や学級の処理ですませることができるとして、この問題を取り上げみんながどう思っているかの調査をすることになった。

イ．調査活動

調査項目は、「集会の内容、やり方についてどう思っているか」「改めてほしい点はどこなところか」などにしぼり、3年以上の各1学級にお願いすることに決まった。早速、調査用紙の印刷にかかり、2日後にまとめることになった。

ウ．議題の決定

調査結果のまとめによると、集会の内容がつまらないという人は約15%で少ないが、やり方についての問題点が発見されたので、議題としてとり上げることになった。

エ．実施計画の作成

話し合いの順序としては、提案理由の説明の中に調査結果についての説明を加え、それをもとに解決方法を考えてもらうように決まった。調査結果のグラフも、もぞう紙にまとめられた。話し合いの進み方については、どのような意見が出てくるかも予想しておくように指導助言をした。

オ．広報活動

代表委員会の日時や議題、とり上げられなかった問題の処理については、一般的に掲示や放送、集会での伝達を用いている。今回の議題は、特に全校児童に深く関係する問題なので、集会において調査結果のグラフを説明し、学級でも話し合ってもらうように

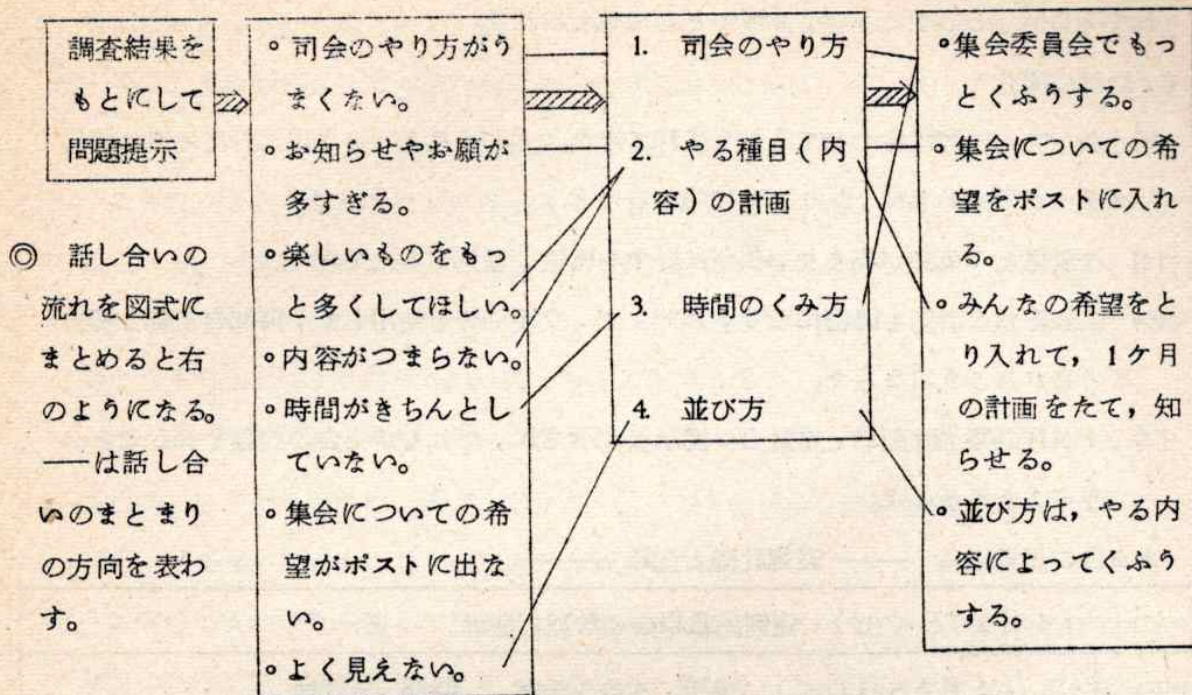
お願いがなされた。調査のグラフはその後、児童会の掲示板にはられた。

(3) 実施計画

運営委員会に出された問題		提出者	問題のしまつ
1. ボールの使い方や後しまつをきちんとし てほしい。	運動部	〇集会や放送で注意してもらおう。	
2. 土曜集会がつまらないので、やり方のく ふうをしてほしい。	6の3 5の2	〇今度の議題にとり上げる。	
3. うんていで遊んでいると、じゃまをする 上級生がいるので、やめてほしい。	1の1	〇集会や放送で注意してもらおう。 〇運動部にも気をつけてもらおう。	
議 題	土曜集会のやり方をくふうしよう。	議 長	脇谷成一 (副) 平山 静江
提案者	小菅貴義(集会委員会代表)	書 記	石沢 稔 (黒板) 小泉 和美
提 案 理 由	土曜集会がつまらないので、やり方のくふうをしてほしいということが、調査の結果わかったので、やり方をどのようにしたらよいか、決めてほしい。		
	予想される話し合い	考えておくこと	
話 し 合 い の 順 序	1. はじめのことば 2. 議題のたしかめ 3. 提案理由, 調査結果の説明, 質問 4. 問題点と解決のしかたについて話し合う。 (1) どんなところが、どうしてつまらないか。 (2) どのようになおすか。 5. 決まったことの整理 6. 記録の発表 7. 記録のたしかめ 8. 先生からのお話 9. おわりのことば	〇議 長 〇全員で議題を読む。 〇調査結果のグラフ 〇調査結果をもとに、原因をはっきりして、解決のしかたを考えてもらおう。 〇とちゅうで議長を交代する。 〇ノート書記(石沢君) 〇議 長 〇議 長	
準 備	〇調査結果のグラフ。 〇集会委員会記 簿		
先 生 か ら	〇ほんとうに重要な問題かどうかは、調査をしてみるとよい。 〇話し合いの進み方については、予想をたてておくように。		

(4) 話し合いの流れ

- ① 提 案 ② 問題点のあらいだし ③ 問題点の理由 ④ 具体的解決
(共通理解)



(5) 考 察

本事例においては調査結果のグラフが、話し合いを深めるために重要な役わりを果たしたものと考えている。調査結果をもとにして、問題点の共通理解が深まり、解決を迫られる場面がうきほりにされたのではなからうか。しかし、これはどのような議題についてもいえることではなく、議題の性格によって異なるものと考えている。

事前の広報活動として、調査結果のグラフを全校児童に提示したことも、議題への関心を高めるのに役立ったようである。それまでは 定例児童集会の内容は与えてもらうものという意識が一般児童にあり、単におもしろいとか、つまらないとか言っていたが、話し合いを通して、「わたしたちの集会」という意識が高まって来たことが、事後調査によってもわかった。

代表委員会の指導教師以外に列席していた教師も、そのことを共通に話されていた。

3. 活動の発展

(1) その後のようす

ア. 集会委員会の活動

決定事項は、翌日になって直ちに広報、伝達されると共に、集会委員会でも反省が行なわれた。

また、3日後の土曜集会でも発表され、「集会についての希望をどんどんポストに入

れてほしい」ということが、お願いとして伝えられた。

イ. 活動の変化

(ア) 並び方が内容に合わせてくふうされて来た。(よく見えるようにするために、野外ステージのまわりに、おうぎ型に集まるなど)

(イ) 全校児童の意識が高まり、集会に対する希望、意見がふえて来た。

(ウ) 集会委員の計画も綿密になり、ストップ・ウォッチを使用して、時間の記録も精密にとられるようになった。

(エ) 1か月の集会計画が、児童会の掲示板に示され、だれもが集会の内容を知ることができるようになった。

(2) ある日の児童集会 —— 実施計画と記録 ——

11月27日(土) 定例児童集会の計画と記録					
計画の 会合	11月25日(木) 場所 4の3教室 時間 放課後				
	司会 小菅貴義		記録 日高美恵子		
	予 定	や り 方	時間		連 絡
や る 順 じ よ	1. 行進, 整列	○レコードに合わせて (司会者三浦)	2分	三浦	・放送部 ・集会委員会 全員と運 動部 説明の図 大玉, 紅 白旗の準 備
	2. あいさつ			三浦	
	3. 今月の歌 「サラス・ボンダ」		2分	平山 日高	
	4. スポーツ集会のやり方 説明	○大玉運びの組分けのし かたを図で説明。 ○ならび方と座席を図で 説明。 ○大玉運びのやり方の説 明 運動部にやってもらう。	7分	柳原 小菅	
	5. 行進, 入室		4分	三浦	
記 録	○図で説明したり, 実際にやって見せたのでよくわかったようだ。				
反 省	○スポーツ集会の気分が だんだんもり上がって来た。				
先生から	○準備がととてもよかった。りっぱなスポーツ集会ができると思う。				

4. 考察・今後の課題

(1) 朝会の週時程のとり方として、一例をあげたが、全校的な朝会が週4回で、学級での朝の話し合いが週2回しかとれないということは、やや問題となるであろう。音楽や体操を

まとめるとか、特別教育活動の集会へ移行するとか、今後検討の余地があるように思える。

- (2) 特別教育活動における児童定例集会の運営組織としては、集会部として部活動に位置づける場合と、本事例のように委員会構成とする場合がある。

この事例の集会委員会は、児童会役員5名と各部代表7名の合計12名によって構成されている。内容が充実されるにともなって負担過重が問題となるところである。現在は自分たちの手で全校集会を運営する喜びとほこりに満ちているので問題はないが、今後集会部としての独立は、当然考えねばならぬところであろう。

多人数の全校児童を動かしていくためには、リーダーとしての資質も要求されるので、部活動としてやる場合は、要求水準を高くもつことは慎み、活動過程でその努力を認めながら、根気強く指導することが必要である。

- (3) 本事例の実践研究を通して「計画は評価より始まる」ということをあらためて痛感した。無理のない活動の範囲を与えてやり、その中で思いきった実践活動をさせ、成功感と満足感を味わわせることが、自治的・自発的活動をおし進めるための、すばらしい活動計画を生み出すポイントになるものではないかと考える。

3 「校庭の遊び方をくふうしよう」という議題をめぐって

渋谷区立 本町小教諭 宇賀春郎

1. 授業研究

(1) プログラム委員会

プログラム委員に出された「とりあげてもらいたい議題」の中から、全校児童に関連した問題、またきわめて児童の緊急を要する問題で、しかも要求度の高いものとして、次のような議題を選ばせ実施計画を作成させた。

第3回代表委員会(7月7日金曜)実施計画の記録		プログラム委員会	
とりあげられた議題	校庭の遊び方をくふうしよう。	とりあげられた理由	遊び場のとりっこで争いが多いので、どうしたら仲よく遊べるかくふうしたい。
会の進め方	1. 開会のあいさつ 2. 出席 3. 委員会、部、学級からのお知らせ 4. 議題の発表 5. 提案説明と質問 6. 議題の確認 7. 話し合い (1) 場所をとる遊びはどんなものがあるか。 (2) どうすれば争いがなくなるか(解決する方法) 8. 決定事項の発表と確認 9. 反省 10. 先生のお話 11. 閉会のあいさつ		
準備	○最近の遊びの調査表 ○校庭の図面		

(2) 指導のねらい

教師 指導の構えとして次のような目標をたてた。

ア．学校内の生活について、自発的に楽しく生活ができるように考えさせる。

イ．そのための方法として、実践的な見通しを考えさせる。

(3) 話し合いのなかれ

ア．プログラム委員会で調べた最近の遊びの調査表の中から、場所をとる遊びとして、

．ゴムだん ．フライ取り ．手つなぎおに ．何歩何歩 ．ピンポン

(いずれも児童がつけた遊びの名称)などがあげられた。

イ．それらの遊びについて、どこに問題があるか、どう解決したらよいか話し合い、次のようなことが決まった。

1. ゴムだんをするときは、5 m以内でとぶ。
ゴムだんは方向を決めてやる。(鉄筋校舎に平行させてとぶ)
2. フライ取りは放課後やる。
3. 手つなぎおにはじゃまをしないでやる。
4. 何歩何歩は広さを10歩以内でやる。
5. ピンポンは組で1つか2つだけ使う。また3 m四方でやる。

決定事項が、きまり的なことや、各自の意識に訴えるようなことの結果になったが、子どもの要求の強い議題であったので活発な討論がなされた。

(4) 考察 (最近の議題と本時の授業の考察)

本校で最近とりあげてきた議題として

1. 代表委員会の係りを決めよう。
2. 全校児童朝会の計画を立てよう。
3. 運動会の係りを決めよう。
4. 夏休みの過ごし方を考えよう。
5. 廊下を正しく歩くためのくふうをしよう。
6. 各部活動について考えよう。
7. 用務員のおじさんにお見舞として折りづるを送る計画を立てよう。
8. 冬休みの生活について考えよう。
9. 球技大会の計画を立てよう。

があげられ、以上の中、1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 9. については、ほとんど実践によって解決できるものとして、代表委員会にふさわしい議題として問題はないと思われるが、4. 夏休みの過ごし方を考えよう。 8. 冬休みの生活について、などは代表委員会に取りあげる議題としては、問題があると思われる。

ア．生活指導上の問題で実践を通して解決することがむずかしい問題であること、

イ．指導要領には「児童会は学校生活に関する諸問題を話し合い、解決し、さらに学校内

の仕事を分担処理するための活動を行う」とある。したがって校外生活に関する問題であること。(この点について本校の地域的特性として、校内生活と校外生活はきりはなせない問題として、また校外地区組織の自主的な活動の共通の話し合いの場として、代表委員会につながりをもたしているが……)

アの点について、この議題に限らずこのような問題となる議題について、次のように考察してみた。

- 生活指導上の問題で、実践性のとほしい問題でも、児童自身で判断できる問題で、かつ児童自身の意識化を計った方がよい場合は、教師側のおしつけとして、きまりや目標として打ち出すよりも児童自身に考えさす方が生活指導上、また特活における自主的な生活態度を育てる上において効果的ではないかという考えから多くの児童から強い要望があった場合には、ある程度代表委員会でも取りあげてもどうだろう。
- したがって、代表委員会の決定事項がいくらかきまり的なことや、各自の意識に訴える目標的なものになる場合もあることを認めることはできないだろうか。

しかし、本時の授業は、生活指導上にも関連する議題ではあるが、(本校では、校庭の使用について、生活指導では危険防止的な面でおさえしている。)児童に直結した問題(共同性、自治的な範囲内の問題)であり、緊急を要する問題であるので、望ましい議題であると考え、プログラム委員会としてもこれをとりあげさせた。しかし、前述したような「きまり的」な決定事項に終わってしまった。

代表委員会や学級会のような話し合い活動においては、「教師の助言は、できるだけ少なくして、児童の手で解決させることが望ましい」とよくいわれるが、教師の指導技術によって、いくら望ましい議題であっても、結果的には、まずくなる場合も、ててくるのではなからうか。

また、代表委員会の話し合いを活発にするには、各学級における教師の指導技術もたいせつになってくるのではなからうか。

(5) 問題点

ア. 代表委員会における決定事項が「実践によって解決される」という結果が望ましいが、生活指導も含めある程度きまりや意識に訴えることになる場合も認めることはできないものであろうか。

イ. 学級における話し合い活動の評価については、ある程度考えられるが、代表委員会における評価についてはむずかしい問題である。

ウ. 代表委員会の話し合いを活発にするには、各学級との関連を密接にすることがたいせ

つであるが、その技術についてどのようにしたらよいかむずかしい問題である。

4 全校児童集会「ドッジ・ボール大会を開こう」について

話し合いから終末までの記録

台東区立 大正小教諭 今井貞男

標題①「ドッジ・ボール大会」が、提案され、どのような審議の流れを通して実施され、終結されたかを 時間の流れに従って記録しながら考察を加えてみよう。

1. この議題がとりあげられるまでの経過

この問題は、6年の学級ポストから、その学級の計画委員会がとりあげることとなり、ドッジボールという競技内容・冬という時期、今年度の全校児童集会のようす等からみて代表委員会へ提案し、全校を舞台にした集会へもっていくべきであるということが承認されて、代表委員会ポストへの投書となった。

(1) 運営委員会での討議のまよう。

1月中旬、第6校時に後期第4回運営委員会が研究授業として開かれた。この日までに提出されていた問題の中から、運営委員長と教師とで、運営委員会能率化のために、つぎの表の問題にしぼっておいた。

〔運営委員会に出された問題とその処理〕

後期第4回 運営委員会		1月17日(火)
出された問題	提案者	処理のしかた
1. なわとびはやめるようにしたい	4の1 T.S	・提案者のいのように困る問題であるかどうか今後観察することにする。
2. 三年以上のドッジボール大会を開いてもらいたい。	6の1学級会	・代表委員会の議題としてとりあげる。
3. 四年生の男子が、ボールを投げつけないようにしてもらいたい。	3の1 女子	・4年生に連絡、事情をさく。 (一部の問題である)
4. 放課後の居残りをなくすため		

このように処理をするまでには、問題の提示、提案理由の説明、質問が、この「ドッジボール大会」の問題にくりかえされ、さらに次のような話し合いが続けられた。

〔発言の記録〕 テープから

発言者	発言の記録	備考
司会者	ほかに質問はありませんか……………ないようですからつぎに、この問題をどう処理するか いてください。	・問題の処理へ
Ka	この問題は、全校の問題であると思います。このへんで、全校児童集会をやってもらいたいと思うからです。	(担当教師は校長・教頭との連絡をとり会
Sa	K君と同じです。全校の友だちのまとまりも、一段と深まるでしょうから。	を成立させることに許可をうける)
司会者	ふたりの賛成意見が出ましたが、反対意見はありませんか。	
Mo	3年以上と議題にいわないで、「ドッジボール大会を開こう」だけにしたらどうでしょうか。参加学年については、代表委員会で話し合うということにしたらどうでしょうか。	・修正意見
Sa	わたしは、3年以上といれた方がいいと思います。なぜならば議題そのものが、これをいれることで、はっきりするからです。	
司会者	議題のいい方で、2つのちがった意見がでてきましたが、ほかのみなさんはどうですか。	(司会の技術)
Sa	M君の意見に賛成です。	
No	わたしも、3年以上としないで、代表委員会で決めるとういと思っています。	
司会者	どうですか。3年以上ということばを、けずっていいですね。	
みんな	はい、いいです。	・修正意見を可決

以上の議題選定で、この議題がとりあげられ、各問題の処理にはいったが この点は省略したい。つづいて 実施計画の作成にはいった。

司会者	では、実施計画をつくります。議題名は決定しましたし、代表委員会の司会・記録・提案者も決まっているわけですから、提案理由にはいります。意見をどうぞ。	・実施計画作成
Si	提案者がこの問題の提案理由をのべていますので、それでいいと思うのです。	(投書の問題用紙が大切な役目をしていることがわかる。)
司会者	ほかの人は。	
Ta	もう一度読みあげてください。ここで考え直そうと思うからです。——— 記録 読む ———	
Sa, Ta	Si 君のいったとおり、それでいいと思います。	
みんな	やはり、そのままでいいと思います。	
司会者	それでは、そのままとりあげます。つぎに話し合いの目あてです。これはどんなことを話し合えばよいかという事です。	・話し合いの目あてをつくる。

その後、集会活動であるので、原案を作成するということを決定した。

(2) 職員会の期日決定

さきに集会の成立について許しを受けており、その協力方と 運営委員会から依頼された期日決定についてはかった。2月10日と決定線がでて、原案作成のとき、教務主任と体育主任とが助言に協力することも話し合ってもらえた。

2. 原案作成におけるいろいろな動き

2月2日放課後、原案作成のための運営委員がひらかれる。実施計画では (1)期日、(2)場所 (3)参加学年については教師一任が決定されているので、この部分をのぞき、(4)どんな方法でこの会を進めていくかの話し合いを中心に行なった。

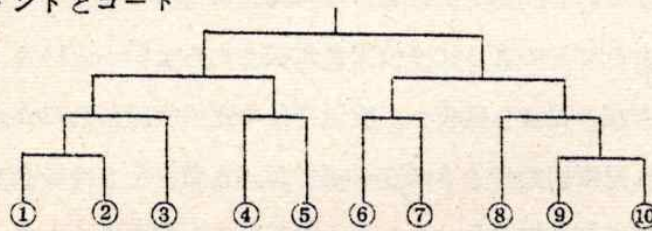
(1) 作成された原案

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| (4) どんなしかたで | トーナメントで部対抗 |
| ① 対戦のしかた | 先生方の案による。 |
| ② 審判とルール | ○進行係り 6人、議長団(時間計画・放送・プロ・統合) |
| ③ 係り | ○記録係り 2人、広報部(経過の記録、大掲示板づくり) |
| | ○準備係り 18人、体育部(コートづくり、放送機準備) |
| | 2人 体育部(準備体操・整理体操) |

(5) この会を進めていく上のきまり

- ア. 2月6日 放課後、各部は部の話し合いをもってメンバーをきめる。
- イ. 2月7日 部代表によるくじびき。くじは先生にお願いしたい。
午後1時20分 会議室にあつまる。
- ウ. 2月9日 審判上のきまりを先生方におききする。質疑応答を行なう。
- エ. 2月10日 体そう着(身じたく) 観覧者はきめられたところにいる。
試合のときは色わけをする(赤白ほうし)
試合時間 前半10分、後半10分 間に2分の休けい。

オートーナメントとコート



コートをそれぞれ決めておくことにせる。

(2) 児童の原案作成と併行した職員会の動き

すでに、まかされた期日を決定した職員会では、2月1日から2日にかけて、コートはどこにとるか、参加学年はどうするかの話し合いを行なった。

ア. コートは、A・B・Cの3つをとる。

イ. 参加学年は3年以上とするが、運営委員会の原案が部対抗ということから、3年生は特別に学年内の競技をくふうして事前に行なう。部の構成は本校では5・6年生であるが、4年生は係り活動を主体として各部に配属させることとする。

一方、体育部5人の職員により、これも先生方にまかせられたルールの検討がはじまり、2月4日朝の職員打ち合わせ会に提案され、承認された。

(3) 代表委員会開催のための広報伝達活動

2月4日の行事朝会のあとをかりて、広報部が全校に伝達する。放送部はマイクを通してよびかける。代表委員会までに児童の話題はもっぱらこのことに集中した。

3. 代表委員会の審議と職員会の動き

代表委員会は2月4日の午後1時半から1時間にわたって開かれた。運営委員会のつくった実施計画に従って、原案の審議を行なったのである。指導者は、青山・松沢両教諭があった。原案のひとつひとつの話し合いを通して、承認・修正へと進んだ。

(1) 代表委員会の話し合いで問題になった点

原案のうち、代表委員が最も問題にした点は

ア. 進行係りが議長団であれば、やはり統括する集会委員長のような中心者をつくらないと、まとまりがとれないのではないかという修正意見。

——— 賛否両論いりみだれたが、原案におちついたこと ———

イ. 保健部は、救護活動として、養護教諭の諏訪園先生の援助をした方がよいこと。

——— 提案は可決 ———

ウ. ルールに対する非常に具体的な問題とその解決をしようということ。

——— 具体的な予想される問題を出し合って共通理解を得るようつとめた ———

エ. これらの決定事項を、どのように全校児童に伝えたらよいかということ。

——— 広報部は、玄関の児童会黒板へ。放送部は今週の実施計画のなかに組み入れること。議長団は児童朝会のとき決定事項の伝達と質問をうける会をもつこと。学級委員は各学級で朝の打ち合せ会のとき説明をし、質問者をたてることを決定 ———

(2) 代表委員会担当職員としての動き

代表委員会で決定したことを職員会に伝え、共通理解を得る。ありがたいことに、この際、児童の意識を高め、実践化をうながし、成功感・満足感をもたせるために、決定事項の伝達の会は10分間の時間延長をみとめ、代表と全校児童とのやりとりをじゅうぶん行なわせたかどうか、という提案が女子職員からあり認められた。また、審判が職員にまかされた以上、確実に行なわなければいけない。お互いが共通理解をするための打ち合せ会を放課後もつことも、他の職員から提案され、決定をみた。しかしながら最大の関心は、学級委員が各学級にかえって、どのように学級児童に伝達したかであり学級委員を招集して事情聴取と質問内容の把握をし、代表に伝えて応答の準備をさせた。

4. その後の児童の動き

(1) 児童朝会における代表の広報活動

学級の伝達のあとをうけて、10分間延長された児童朝会をもち、決定事項の伝達と質疑応答を行なう。質問者をたてたため、内容がはっきりし、時間内で会をとじた。

(2) その後の児童の動き

代表委員会決定の線に従い 次の行動を行なった。

ア. 2月6日 第7校時 部会 大会のメンバーづくり。部の当面する問題の話し合い

イ. 2月7日 朝 メンバーを代表にとどける。

ウ. 2月7日 休み時間、各チームの参加人員の調整が、児童代表の間で問題になり、解決への動きがおこる。

エ. 2月9日 昼休み, トーナメントのくじびき。対戦相手がきまる。指導, 青山教諭
放課後, 広報部活動 玄関黒板にかかれる。

大会の係り活動 それぞれ責任をもって活動する。

特に進行係は 集会の次第をつくり, 時間計画を再検討した。

(3) 当日の活動

進行係がつくった集会の次第では, (1)整列, (2)あいさつ, 委員長 (3)お話 校長先生,
(4)競技上の注意 体育部の先生, (5)準備体操 体育部, (6)トーナメント法の説明と審判の
先生名の発表 進行係, (7)試合 (8)整列, (9)成績発表 進行係, (10)感想発表 先生,
児童, (11)整理体操 体育部 (12)解散 となり, 午後1時半より3時半まで, 時間通り進
行された。競技は熱戦につぐ熱戦で広報部の優勝, 放送部の準優勝で幕をとじた。

5. 集会終了後の動き

(1) 集会をふりかえる児童と職員

翌日の2月11日朝, かんたんでも集会をふりかえる職員会をもった。終了直後, 話題
になったことをもとにして, 学年代表の職員に発表してもらったのである。

一方, 児童の方は, 運営委員会で実態調査を行なって検討することを代表委員会で了承
してあったので, ただちに調査が行なわれた。その結果の一部は,

ア 楽しかった 201, 楽しくなかった 21, イ また, 全校集会をひらきたい
218, ひらきたくない 4, ウ この大会を計画したおもなところは, 先生 0 体
育部 4, 運動クラブ 1, 代表委員会 217, で, 昨年度の実施結果とくらべ児童
会活動への関心は一段と高められたと考えている。

(2) 次の全校児童集会への見通しの運営委員会

調査結果の集計結果をもとに, 運営委員会は, はじめから終わりまでの流れのなかでも
っと, やりやすいようにくふうできる点はないかを検討し, 次の全校児童会への見通しな
どについて話し合った。

6. 考 考

以上, 一つの「ドッジボール集会」という議題の流れをおいながら, 児童の活動のあとを
たどってみたのであるが, そこには, いろいろな問題点と, 考慮しなければならぬ点がある
と思える。流れを記録して考えられるいくつかの点について考察を加えてみよう。

(1) 児童会活動のうち, 特に全校児童集会では, 全職員の協力の姿こそ, 誠に尊いものがあ

- る。一つの会を側面からバックアップするためには、随所に共通理解の重要性を認識させられるのである。この方面の開拓は児童意識の向上と併行してみるのができなない。
- (2) 児童集会では、スポーツ的なもの、リクレーシヨンの的なものとを問わず、集会のかなめとなる部面がある。この部分は大いに指導助言しなければならない。全校集会といっても、何から何まで児童にやらせることではない。職員会の動きと児童自身の作った実施計画との融合も、各集会の経験の中で確立していく必要があるのではなからうか。
- (3) 全校児童集会をもちあげるものに、運営委員会や代表委員会の広報伝達活動が、その一つとしてあげられる。本校の事例はその一例であろうと思うが、順をおった広報伝達活動は、連帯感・満足感・成功感を与える上に大きな力となっていることを感ずるのである。その中でも代表委員会の決定事項を伝達するのに、本校がとった方法は非常に効果があったように思える。決定事項の一方的伝達ではなく質疑応答も加味し、全校児童の要望や意見の開陳などの機会をできるかぎりとることが大切だといえる。
- (4) 全校児童集会は年間計画を立て、年間何回という程度の予想をたて、どこまでを児童にまかせるかを決定しておくことが大切である。(1)の職員の協力——職員の共通理解を得る上にも、児童にその能力外のしごとをさせないことから、広くは学校経営上からもこのことは誠に重要であろうと思う。
- (5) この記録にもられた「ドッジボール集会」をみて、体育学習的だとか、行事的だとかの批評もうけたが、もちろん体育学習とはおのずから異なることを理解していただけるものと思うし、いやしくも学校の教育活動である以上、学校行事との接点が存在しなければならぬものと考えている。本校では、この集会活動が一つの礎石となって、その後「一年生を迎える会」「もちつき集会」(本年度読売新聞紙上で紹介)「六年生を送る会」など各方面の全校児童集会がもたれたことからみて、本校ではこの集会活動が一つのきっかけとなったことを認めたいのである。
- (6) 集会活動といわず、代表委員会の決定することについては、議題選定から終末の活動に至るまでの一連の活動の流れの記録は、記録の尊さを予想以上に教えてくれたことを、今思うのである。この記録を何度も反すうするときに、本校の児童会活動の問題点が何であるかが、うきほりされてきたからである。
- ぜひ、この流れをおった記録をとられることをおすすめて、考察のまとめとしたい。

5 送別球技会における児童の意識と教師の役割について

世田谷区立 世田谷小学校教諭 小 泉 美 夫

1. 授 業 研 究

(1) プログラム委員会のようす

2月1日、提案箱と委員の口頭学級提案を処理したあと、6年をおくる催しの相談をする。

ア. 催しをするか、しないか。

「球技会は、6年をおくる会のあとにした方がよい。」とか、「サッカーがよい。」などの意見が出はじめたが、「するか、しないか。」から考えるように指導した。

主な発言内容は、次の通りである。

- ・ 去年やったのに、今年やらないのは、へんだ。
- ・ やらないと、今学期の代表委員会は、つまらない。
- ・ 6年生がよろこぶし、5年以下も楽しい。
- ・ 楽しいよい点は、僕等が準備して会がすすめられる。
- ・ 用意が大変だ。
- ・ 会の時、かかりは、かっこうがよい。

する方の意見が、このように出た。これが提案理由になることに気づいた。

○ 考 察

1回目は、40年度である。「用務員さん達、ありがとうの会。」が38、39年度であった。それが発展した形で「6年を送る催し。」になった。遠因は、ありがとうの会が面白くなかったこと、つまり集団活動にもなりにくいし、自発的自治的な愉快さを児童は感じなかったのであろう。きっかけは41年2月、6の1の学級会で決った廊下の壁掃除であり、口火は2月の代表委員会で「6年生とおじさん達ありがとうにしたらよい。」という意見であった。ありがとうより、さよなら運動試合をやったらよい。写真をとったらよい。卒業の日全校で、さようならを言ったらよい。手紙をあげたらよい。などが出たが、運動試合に関心が寄って、「何の試合がよいか。」など、すっかりその気になってしまった。日程の余裕がないので、3日間に限って臨時学級会をとり、4日後(3月6日)に、もち寄ることにした。廊下で3年生が「風船飛ばすんだ。」2年生が「つるを6年のへやに飾ってあげるんだ。」と教師に話しかけたり、6の1に刺戟されて、6年の他学級が昇降口の下駄箱をあわてて掃除した

りなど、活気を呈した。

2回目の42年2月、前例にならって、ただ単に行うことが予想されたので、意識を高める箇所は、進行発展上のどこがよいかを、指導上の留意点にした。

1. 送別球技会のやり方の案をつくる。

(ア) 案 . 勝ちぬきにしないで、組として1回ずつの親善戦にする。

. やるのは、4. 5. 6年(各3組)男女別だから、6間目12試合。

. 日程は、議長団が学校の予定で考える。

=指導がなくて、ここまでの案ができた。35分かかった。=

(イ) 考察 具体的見とおしを持っていないと、案がつかれない。いわば、予見してその時の気持ちになるということだから、意識をみてよい。発言内容から、参加委員は意識の共通性があったと判断した。然し「準備に何があるのか。」「審判は誰がするのか。」まで考えつかなかったもので、指導した。

(2) 指導のねらい

送別球技会(放課後)や卒業生を送る会(60分)で、児童の意識を高めながら、正しい見とおしを持たせ、自発的な実践活動をさせる。

(3) 話し合いの流れ

○ 2月5日、卒業委員会(校長以下7名)で日程をつくる。送別球技会は2月中に終る。時数は体育2時限と放課後を使う。6年を送る会は、3月14日第3, 4時にする。謝恩のつどいは、3月22日にする。

議長団会。送別球技会は、20~28日、月火木金の第6時と放課後で。

○ 2月8日、代表委員会

ア. 送別球技会をすることになった。提案理由を説明する。(上記)

イ. 参加学年 4. 5. 6年

ウ. 親善戦にする説明(勝ちぬき戦の図, 18試合。親善戦の図, 12試合。)

エ. やるもの 女子ドッチ 男子ソフトとサッカーのどちらにするか。

○ サッカーは負けるからソフトがよい(4年)負けても6年が楽しければよい(5年)

○ 4年対6年(男ソフト女ドッチ) 例6の1対4の2

5年対6年(男サッカー女ドッチ)例6の1対5の3

オ. 3年以下は、どうするの? 考えてあげよう(4年B子)

○ 担任の先生にお願いして、学年球技会のようなことをしてもらおうと助言した。

カ．準備や審判は、体育部にまかせる。

(4) 考 察

ア．代表委員会後の児童作文

ある4年生が「僕等もいっしょに送別球技会をやらせてほしい。」とプログラム委員会で意見を出しました。皆は、そんなことを考えていないらしくざわついた。議長団の席にいた僕は意外だったので驚きました。でも4年生の意見を聞くと、どうしても入れてあげたいと思いました。結局「せっかく言うのだから入れてあげよう。」と決った時、4年は勿論、僕も愉快でした。その後、議長団で4年を入れた計画をたてると日数がふえて苦勞しました。やっと時間の工夫で出来上りました。児童会とは、こういうものなのだと思いました(3月14日、6年をおくる会で、6年のだしもの1部)

イ．教師の役割

このような経過があったにもかかわらず、4年が参加したことに感動が生まれなかったり、送別球技会を是非やりたいから計画したのに、その意気が思うように伝わらなかったりする。プログラム委員会で敷いたレールを、代表委員会が走るだけだと、意識の高まりを期待しにくい。「4年生も参加させてくれ」が、もし、いっそく跳びに本番の代表委員会にとび出したら、議事は混乱するけれども会議が沸くであろう。沸く間に思わぬ成果、つまり意識の高まりが生まれるかも知れない。

然し、実施計画の段階で、意識の高まりは企図すべきものである。今回の代表委でそれを予想した個所は、男子のソフトかサッカーかというのと、準備の内容と計画(計画力)の2つであった。結果からみて、これは企図でなく予想であったに過ぎなかった。活動の発展の中で、見通しをもった意識を次第に高めていく性格のものもある。こんかいはそれである。

3年生以下におもいが、いたったことに、賞賛と助言を与えたのは、全校的視野に立った代表者としての意見だったからである。

2. 活動の発展

(1) 表 示

児童の意識	進 展	教師の役割
学級委員の学級への報告。 ・なぜ勝ちぬき戦にしなかったのかと、強い要望が	2月11日 朝会で代表委の発展を する。	発表原稿の下見と助言。

児童の意識	進 展	教師の役割
<p>出た学級1学級あった。</p> <p>朝夕、4人が集っては相談する。</p> <p>ルールを、副読本と、ルール集で調べる。</p> <p>部員コート大きさ、ルールが明確になる (教科学習の知識が行動化した。)</p> <p>学級内の作戦会、練習会さかんになる。(日曜日、公園で練習する学級もてる)</p> <p>部員、リハーサルやりたい。</p> <p>他学年の観戦、同学年の応援、次第にふえる。(手製の旗やブラカード)</p> <p>1年～3年学年球技会を体育の時間にやらせてもらう。</p>	<p>2月13日～15日</p> <p>体育部、クラブ責任者会 (4名)</p> <p>組みわけの図をつくろう。</p> <p>コート大きさとルールを研究しよう。</p> <p>各組へ、ルールの説明に行きたい。</p> <p>・説明図をつくろう。</p> <p>・原稿も作っておこう。</p> <p>ライン、採点板、記録の係と準備のしかたを決めておこう。</p> <p>2月14日～16日</p> <p>部、クラブの4分科会で、責任者が説明する。</p> <p>2月16日 キャプテン会</p> <p>組みわけ決定</p> <p>2月17日 体育部巡回説明</p> <p>2月18日 体育部リハーサル</p> <p>コートつくりと審判研究</p> <p>2月20日 試合開始</p> <p>第5時終了後、部員の活動開始。</p> <p>第6時及び放課後に行う。</p>	<p>どんな準備があるか話し合わせた。</p> <p>準備しなければ困るものは何か、という観点で助言した。</p> <p>責任者4人が、1分科会ずつ受けもって説明する。</p> <p>抽籤準備図の用紙と相談を受ける。</p> <p>希望に応じる。助言。</p> <p>○担任は、進行の円滑と児童管理をはかる。</p> <p>○児童の活動を援助する。</p> <p>・分担主義に徹する。</p> <p>・試合は協力(体育部への)と意気があること。</p>

(2) 送別球技会後の児童作文

代表委員会でひきりけたものの、嬉しくもあり心配でもあった。1回目の計画会のようすでは、らくなようだったが、抽籤準備図、コート距離ぎめ、掲示用の対戦表、ルールぎ

め、それから組へ知らせる印刷など、1日にひとつずつやっていくうちに、仕事のつらさ、気づかなかったことが、だんだんはっきりしてきました。夕方遅くまでやっている、先生が、「大変だったろうな。もう遅いから帰いなさい。」といったことばで、皆のためにやらなくちゃあと元気が湧いてきました。=中略=サッカーの審判中、手は汗ばみ、のどはカラカラ、ボールと一緒にマラソン。笛をふくの迷っているうち、試合はどんどん進む。反対に僕達が試合をして、他の人が審判をすると、競技に審判は、なくてはならないとしみじみ思った。審判は適確にすることがよく分った。この球技会は僕らには、やり甲斐のある仕事でした。(3月4日朝会、体育副部長(5年)の得点発表の原稿より)

3. 考察及び今後の問題点

(1) 意識の高さは行動化によって評価できるが、送別球技会の場合、推進力になる部員の活動に全体が左右される。準備の総ては、試合開始と共に成果となって現われる。連日、コート書きに労苦を惜しまず、後始末もあすを考えて行う様子は、本当に彼等のものと言える。

(2) 意識調査

進展に伴って、当事者である代表委員、体育部員と、一般児童を対象にどのような意識の変容があったものかを調査しなければならなかった。調査方法や調査項目を、しっかり吟味して、正当な評価をしなければならない。

1年を経過した今、去年の3、4、5年について若干調べたものを付記して、今後の研究の動向としたい。(42年12月調べ)

ア.送別球技会の記憶が鮮明に残っているもの。約20%

イ.去年あった送別球技会の議決は、代表委員会でなされたと答えたもの。

旧3年 45% 旧4年 80% 旧5年 97%

ウ.自分も去年の体育部員のように、今年は活動したい。

現5年 60%(男女比同率)、現6年 38%(男女比3:2)

5年生が係活動をやってみたいという理由は、仕事によってルールをよく覚える。女子でも、自分の出来る限り活動したいと気概のほどを示している。

6年生は、審判など失敗するといやだからと、羞恥心が低率になって現われた。

エ.児童会活動による児童の意識の変容について研究することが、来年度の研究主題でもある。

6. 今後の問題点

港区立 桜川小教諭 外村 近

以上4つのテーマについての研究を紹介したように、すぐれた実践事例がそろったにもかかわらず、なお、多くの問題点が残っているようである。

たとえば、次のような問題が考えられる。

1. 4月から、3月の学年末にわたる代表委員会の話し合いの実践事例
2. 集会活動についての年間の実践事例
3. 各部活動の年間の実践事例

領域別に考えると以上3つのことになるが、視点をかえると、次のようなことも考えられる。

4. 児童会の各種活動における自発的自治的活動の限界の集大成。
5. 各種活動における児童の変容を、意識や教師の役割からとらえていくこと。
6. 児童会活動における教師の発言はどうあったらよいか。

これらの問題については、来年度、さ来年度と、研究を積み重ね、究明していくことが大切であろう。

研究会出席者 名簿

港	桜川小	外村 近(部長)	大田 千鳥小	太田 倍司
板橋	大谷口小	松野 彰夫(副部長)	世田谷 塚戸小	北村 孝夫
台東	大正小	今井 貞男(副部長)	〃 世田谷小	小泉 美夫
文京	金富小	堀井 太郎	渋谷 本町小	宇賀 春郎
江東	元加賀小	西倉 正	杉並 浜田山小	吉田 茂治
品川	第3日野小	小林 順一	荒川 第一峡田小	谷田川 隆介
目黒	中目黒小	新村 優	練馬 豊溪小	星野 隆治
日野	日野第四小	津野 晴孝	大和 大和第3小	関口 主一郎

(以上16名)

Ⅱ 望ましい指導計画をふまえた実践事例

クラブ活動

研究グループ

1. 今年度の研究構想

三活動とも「望ましい指導計画をふまえた実践事例集」というテーマに決定する。

このテーマ設定の意図は、三年間続けた研究を土台として、望ましい実践のあり方を事例によって確かめようという点である。そして、次のような点に活用の効果をねらいたい。

- (1) 新しく学校を卒業してきた指導者も、興味と関心を持って、この領域の指導にあたることのできるような、わかりやすいものであること。
- (2) 新年度、クラブ活動の発足にあたって、児童に主体性を置きながらたてる実施計画の具体的な資料となるものであること。
- (3) それぞれのクラブの特質に応じた活動の流れをいくつか紹介し、学級の実情に即したクラブの数や種類が設定され、よりよい運営の手がかりになるようなものであること。

2. 紹介するクラブの特性 (上記の観点から)

- ・ 個人活動になりがちであったり、技能面にとらわれがちになりやすいクラブ……あみものクラブ
- ・ 施設、設備を生かしたクラブ……卓球クラブ
- ・ 全員の役わり分担によりひとつの活動がすすめられやすいクラブ……演劇クラブ……
- ・ グループ活動がすすめられやすいクラブ……科学クラブ

3. 入部指導について

前年度の研究で、具体的な指導の手順を紹介してあるので、本年度は、特に、各クラブの一題材、1単位時間等の流れを、どのように運営していくかという点に事例をしぼった。

したがって、入部の指導については、前年度の研究資料の活用により、年間を通して、入部までの手順をきめこまかに積み重なってもらいたい。

基礎的な技術の習得と、クラブ活動の関係例

あみものクラブ

クラブ員	6女	5女	指導者
人数	18名	18名	3名

1. 活動題材がきまるまでの経過

(1) 本年度の計画について話しあう。

ア. 活動の形態 5・6年混合グループにする。

(昨年、5年グループ、6年グループにわかれたため、差があつてうまくいかなかったという6年生からの反省がとり入れられる。)

イ. グループ作りをする。(リーダーは、あみものに経験のある者が推せんされる。)

ウ. グループごとにどんなことをしたいか相談する。

(クラブの総時数、経験者、未経験者、等を頭に入れて、題材や題材数を相談するよう
に助言する。)

エ. グループごとの発表から、共通のものをぬきだし、実施可能かどうか話し合いながら
計画表を作成する。

(2) 実施予定表

前期 (4月～10月)主として個人製作		後期(11月～3月)主として共同製作		
4. 5月	<ul style="list-style-type: none"> ○あみ方の種類を調べる。 ○基礎あみをする。 	<ul style="list-style-type: none"> • グループごとの共同製作 ……本時 ○ モチーフ <table style="display: inline-table; vertical-align: middle; border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 0 5px;">{</td> <td style="padding: 0 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • クッション • テーブルセンター • その他 </td> </tr> </table> • 共同製作による自由作 	{	<ul style="list-style-type: none"> • クッション • テーブルセンター • その他
{	<ul style="list-style-type: none"> • クッション • テーブルセンター • その他 			
6. 7月	<ul style="list-style-type: none"> ○花びんしきを作る。 			
9. 10月	<ul style="list-style-type: none"> ○すきなものを作る。 			

ア. あみものに必要な参考資料が家にあつたら持ちよる。

イ. 前年度の作品で、学校に残されているものを活用する。

ウ. 個人製作費は、自己負担になるので、費用が多額にならないよう、家庭にあるものをなるべく利用する。

2. 実施計画

(1) 活動題材 クッション (グループごとの共同製作) 費用 公費

(2) 活動の予定

グループごとに話し合い、調整し合つて決める。

ア. デザイン、あみ方、仕事の分担などの話し合いをする。 2時間

イ. グループ内で個人別にモチーフあみをする。 2時間

- ウ．モチーフあみと，つなぎあみにわかる。 2時間……本時
- エ．仕上げをする。 1時間
- オ．鑑賞．反省をする。 1時間

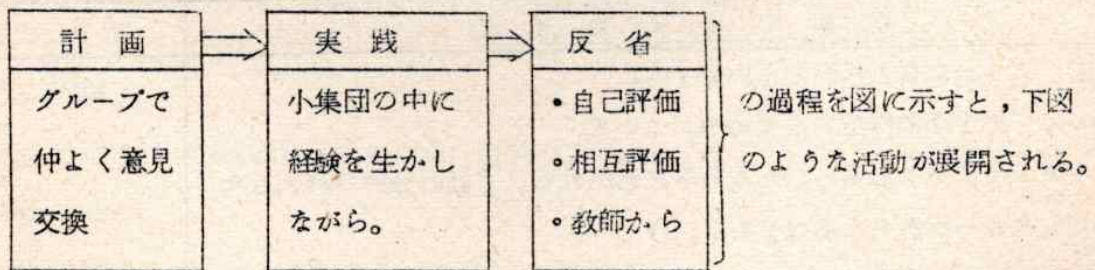
(3) 教師の助言

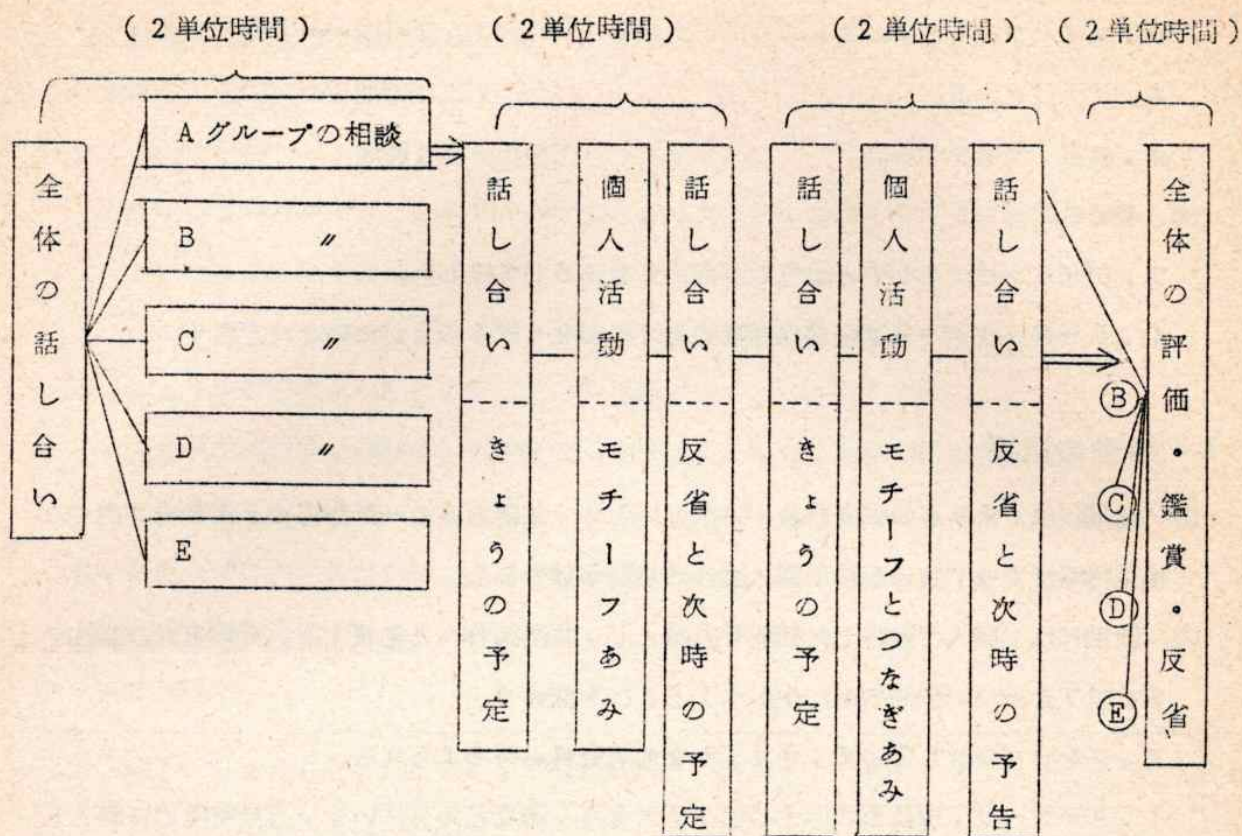
- ア．デザインは，あみ方と配色の両面からくふうしてほしい。
- イ．リーダーはグループ全体の作業の進行に気をくばることがたいせつと思う。

3. 活動の概要

- (1) 前期には，あみものに未経験が半数近いため，基礎あみの一斉指導や，グループ内での相互指導により，主として，個人製作の活動形態をとる。
- (2) 後期には，個人で習得した技能を基礎とし，共同製作へと発展する。それぞれの個性やアイデアを一つの作品の中に生かすよろこびを味わう。
- ア．グループの話し合いに，さまざまな参考資料が持ちよられる。
- イ．リーダーは，校長室のいすの色や，大きさ，形などを見にいき，意見交換の資料としている。
- ウ．あみ方は，一学期習得したり「みじかあみ，長あみ，くさりあみ」の三種類を応用する。配色もそれぞれグループの好みで決める。
- エ．グループごとに進度表がつくられ，予定にそって活動がすすめられる。
- オ．本時に至るまで，モチーフあみが3時間実施されたが，共同であんでみると，5年と6年では技能に差がでてくる。リーダーは，おくれがちな児童に6年生をつけて，りっぱな作品をと考えたい教師は，一歩さがって，心すべき点であろう。

カ





※ 共同製作ではあるが、仕事を分担して活動しているので、自分の分担した作業をすすめている形は個人活動になる。

4 活動の実態

(1) 本時の活動

ア 指導のねらい あむことを身につけながら、共同製作の楽しさを味あわせる。

イ 活動の展開

活動のめあて グループで、モチーフあみや、つなぎあみを分担してあむ。	
児童のおもな活動	助言
① グループごとに話し合いをする。 ○ きょうの作業のすすめ方について。 ○ モチーフあみとつなぎあみにわかる。(話し合いの終わったグループからあみはじめる。) ② 作業のようす ○ モチーフあみ 第一段 くさり4目を輪にし、長あみ3・くさり2.を4回 第二段 くさり5月あみ、前段のくさりへ長3.次から長3くさり2.長3.おわりは、長2でひきぬきあみ、	

児童のおもな活動	助言
<p>・ 第三段 かどは、長あみ3．くさり2．長あみ3 他は、長あみ3．（段はじめはくさり5め、長3）</p> <p>第四段 三段と同じ要領</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ときどき、友だちのあんだモチーフと比べてみている。形、大きさをそろえたり、手にとって、しばらく眺めている姿などが目にうつる。 ○ 5年生がきつくあみすぎて、となりの6年生が糸のゆるめかけんを教えている。ほどいて、はじめの方を少しあんでわたした。 ○ 色別の個々のモチーフを持ちより、配置について相談する。 小声で意見をだし合って、モチーフをいろいろに並べかえている。やがて意見が一段。 ○ モチーフあみと、つなぎあみにわかれる。 ○ つなぎあみを分担した児童の作業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 決まった配置のように、モチーフをそろえ、こまあみでつなぎあわせる。 ・ モチーフのあわせ方がうまくいかず、何回かほどしている児童がいる。 ○ リーダーは、ときどき、5年生のところをまわって、少しあんでやったり、全体の進度をたしかめたりしながら自分の分担を手ばやく作っている。 ○ モチーフあみをしている児童が、「はじめのモチーフより今度はやわらかい感じにあめた。」といてうれしそうに話しかける。 ○ 教師もグループの中にはいって、モチーフをあむ。 ○ きょうの反省と次時の打ち合わせをする。実施記録をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生より班長さんの方があみかたにくわしいようだ。 ○ 〇班の〇〇さんは、教え方が親切だ。 ○ 形、大きさなどをよくくらべてあわせてあんでいるか。

(2) 活動の発展

同じような活動が次時にも行なわれる。最後の2時間を、仕上げ、相互評価、鑑賞、などの時間とする。

それぞれ、グループの創意豊かなクッションができあがる。

ア. グループごとの発表（自己評価、相互評価）

完成までの苦勞した点、特にくふうしたところ、共同製作の感想発表などが交換される。作品には、かかった時間、使った糸の量、あみ方の種類、分担表などが貼布され各グループの歩みがにじみでている。

イ．クラブ発表会には，作品を手にして，具体的な発表が行なわれる。

ウ．作品は，学校に記念に残す。

エ．最も大きな発展は，今年度最後の作品として，クラブ員全員による一つの共同作品を作りたいという計画がだされたことである。そして校長室の長いすにかけるカバーと決まる。

5. 考 察

(1) クラブ活動における個人差への対処

共同作業をしてみると，やはり，5年と6年では技能の差がでてくる。速度についても，あみ方にも，できばえにもそれが見られる。しかし，リーダーはあみ方になれている児童と，なれていない児童をうまく組み合わせて仕事をすすめている。教師もよく知っている児童に聞きながらあんでいると，教えてもらうのに，教師のところへ持ってくる児童は少なくなり，相互指導の姿が多くなる。このような活動の流れの中で，楽しく，気軽に作業しながら，人間関係も深まっていく。そこには，グループの進歩もありありとみられるようになる。

このことから考えて，とかく技能を重視しがちになったり，個人活動だけになりがちなクラブでは，運営面で，児童の動きをみつめながら助言していく教師の姿勢は次のようでありたい。

ア．教師が直接技術の指導をすることは，なるべくさけ，児童の相互指導を主体とする。

イ．活動の形態をくふうし，学年・学級のわくをはずしたグループづくりによる活動にしむけていく。（クラブ員の実態によっては，ある期間一斉指導の形をとることもあり得る。）

ウ．参考書の使い方などを話し合わせ，資料の活用ができるようにする。

エ．経験者を生かし，創意やくふうの充実をはかっていく。

(2) 共同製作に求められるよさ。

個々のモチーフが集められて，一つの作品になるこの活動では，個々の児童の優劣は作品にはあらわれずに美しいクッションにまとめられる。（一つ一つのモチーフをみると，形，あみ方などいくらかずつちがいばらばらであるが，まとめられた一つの作品の中では，調和されてみえる。）クラブ活動の評価は，技能の優劣でなく活動の過程がたいせつ。

(3) 実践の積み重ねは，やがて，クラブのよい伝統がつくられていく。

所属感や，連帯感が深められ，「わたしたちのクラブ」というふんいきの中で，児童は

体験を通して、はだでクラブ活動の本質を理解することができるようになると思う。

施設・設備を生かしたクラブの例

クラブ員	6男	5男	指導者
人数	8名	8名	2名

1. 活動題材がきまるまでの経過

(1) 本年度の活動計画について話し合う。

- 5・6年混合の2つのグループにすることになった。
- グループづくりをする。
- グループごとに、何をどんなふうにやるか相談した。
- グループごとに相談の結果を発表し、卓球クラブとしての実施計画をたてた。

月	実施予定	時間	備考
4	○入部希望調査(第二次)○所属クラブ決定 ○組織づくり(自己紹介,係分担,班編成)	2	○学年学級のわくをはずして,2つのグループをつくる。
5	○年間実施計画をつくる。 ○練習をする。	3	
6	○練習をする(ルールを教え合う,サーブ) ○試合をする。	5	
7	○練習をする(ドライブを中心に) ○試合をする(A対Bの団体戦)	2	
9	○係りの交代をする。基本グループを改選する ○練習と試合をする(サーブ,レシーブを中心に)	4	○反省により,ちがった係りを分担しあう。
10	○練習と試合をする(ショート,ドライブ,カット)	4	○勝敗にこだわらないようにする。

	実 施 予 定	時間	備 考
11	<ul style="list-style-type: none"> ○練習する(カウントのとりかた) ○試合をする(シングルスによるリーグ戦) 	5	○勝敗にこだわらないようにする。
12	<ul style="list-style-type: none"> ○試合をする(シングルスによるトーナメント) 	2	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○係りの交代をし, 基本グループを改選する。 ○ダブルスの練習をする。 	3	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○練習と試合をする(ダブルス) 	4	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会の準備と発表をする。反省会をする。 ○クラブ設置希望調査(第一次・4・5年対象) 	2	
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に点をとられる場合 <ul style="list-style-type: none"> ・正規のサービスが行なえなかったとき, ・サーブ球に回転を与えたとき。 ・プレー中, 左(右)手がコートにふれたとき ・球をボレーしたとき。 ・手でボールを打ったとき ・ボールがエッジ以外の下台にふれたとき。 		

2. 実 施 計 画

(1) 活動題材 AとBの混合グループにわかれて, リーグ戦をする。

(2) 活動の予定

ア. リーグ戦について話し合い, リーグ戦表をつくる…………… 15分(事前準備の時間)

イ. リーグ戦をする…………… 2時間(本時 $\frac{1}{2}$)

(3) 教師の指導

ア. 運動量が不公平にならないように助言する。

イ. 興味と関心をより高めるため, 能力差の大きい組み合わせが, 多くならないようにする。

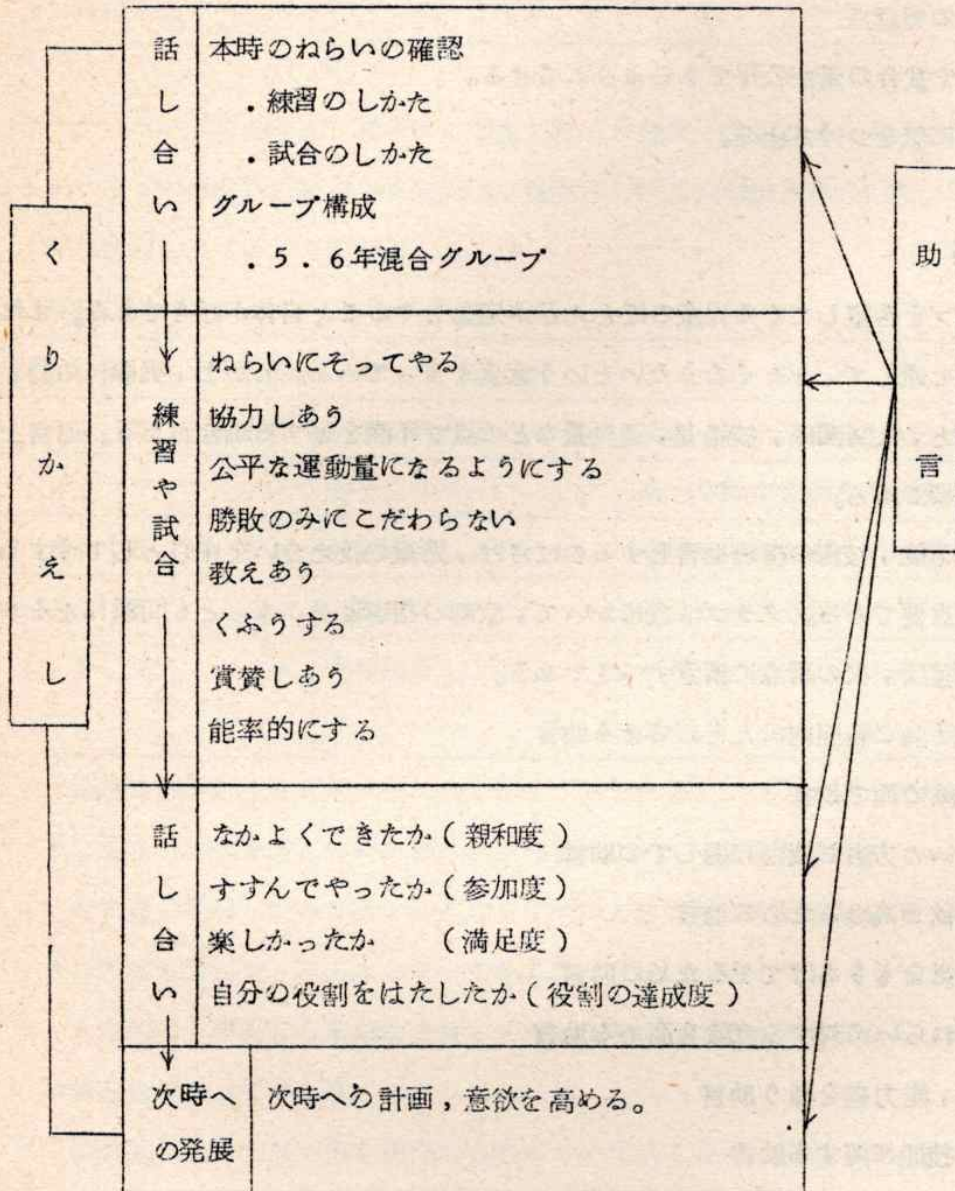
3. 活動の概要

○技能や経験の差から生じやすい“興味関心や活動意欲の減退”につながらないよう, グループ内の教え合い, たすけ合いを重視し, 活動をすすめた。

○ルールについても, 児童の話し合いで, お互いに知っているものを取りあげて実施した。

また、基礎的な技術については、事前に指導することを避け、つとめて児童自身に解決させるようにしたが、なお未解決の場合は、最少限に必要な助言をしてきた。

○一単位時間の活動の流れ（児童の活動）を次のようにおさえた。



4 活動の実際

(1) 本時の活動

ア．事前の準備をする（15分を準備時間として特設している）

・卓球台，用具の準備を全員でする（2台使用）

・リーグ戦表をつくる（A・B）

イ．おもな活動

・集合，あいさつ ・出席のたしかめ ・本日のやることをたしかめる

- ・準備運動をする ・ロングの練習をする (A, B, 別々に)
- ・リーグ戦をして記録をとる ・整理運動をする ・反省と次時の予定の話し合
- い ・あとしまつ ・記録

ウ. 指導上の留意点

- ・練習や試合の量が公平であるようにさせる。
- ・安全に気をつけさせる。

5. 考 察

(1) このクラブを希望してくる児童のほとんどが運動をやること自体が好きである。また運動そのものを通して、うまくなりたいという意欲をもっている。しかし、実際に活動を展開してみると、人間関係、技能差、運動量などの点で不満を感ずる場合がある。運営上のくふうが必要である。

(2) 教師が、直接、技術の指導助言をするのはさけ、児童の教え合いを中心としてすすめていくことが重要である。クラブ活動において、教師の指導姿勢がもっとも問題になるがその中で、助言は、次の諸点に留意すべきである。

ア. 自治的活動の範囲内にとどめさせる助言

イ. 人間関係の面で助言

ウ. 話し合いの方法や技術に関する助言

エ. 活動意欲を高めるための助言

オ. ふんい気をもりあげてやるための助言

カ. 活動のねらいに対する意識を高める助言

キ. 個人差、能力差を補う助言

ク. 知識や技能に関する助言

ケ. 評価のための助言

全員の役割り分担により、一つの活動が進められ易いクラブ

演劇クラブ	クラブ員	5年男	5年女	6年男	6年女	指導者
	人数	2名	3名	2名	13名	2名

1. 活動題材が決まるまでの経過

(1) 本年度の計画について話し合う。

- リーダーを選出して「どんなことをしたいか」ということについて話し合った。

まず、演劇部としての活動形態についてのジャンルをあげ、それについてのアンケートをとった。アンケートの結果は、下記の表のようになった。

活動形態	ふつうの劇	放送劇	人形劇	劇の脚本製作	計
希望人数	9	7	2	2	20

- アンケートの結果を 参考にして話し合った結果、次のような活動計画をたてた。
(クラブの時間数と題材の予想時間、演劇についての経験等について みんなで考えながら計画をたてるように助言した。)

(2) 活動計画

月	予定時数	活動題材	活動内容
4. 5	8時	演技の練習をしよう。	発音、発声、演技の基本練習。
6. 7	7〃	劇をしよう。	適当な脚本を選んで劇をする。
9. 10	9〃	放送劇をしよう。	適当な脚本を選んで放送劇を録音しよう。
11. 12	7〃	人形劇をしよう。	適当な脚本を選んでペープサートをしよう。
1. 2. 3	9〃	創作劇をしよう。	グループに分かれて創作劇を作り、してみよう。

- 演技の練習は、4グループに分かれて 自分たちでやさしい脚本を作ってやってみたり、適当な脚本を選んで いろいろな場面についてやってみよう。
- その他の題材については、みんなて、いいと思う脚本を持ち寄って 相談してよさそうな脚本を選んで みんなでやってみよう。
- 人形劇は、学校にある舞台を使ってやってみよう。うまく出きたら 来年度の新入生の観迎会にやってみよう。
- 創作劇については、脚本創作の方法について話し合い、登場人物の数等の関係で、2. 3グループに分かれた方がやりやすいことを助言、冬休み中に案をねってきて1月早々に持ち寄り、相談してよいものを取り上げ 更にくわしく脚色していくことにする。

2. 実施計画

(1) 活動題材 放送劇を しよう。

(2) 活動の予定 (9. 10月 9時間)

ア. 活動予定についての話し合いをする。…………… (1時間)

脚本の選定. 脚色等の方法. けいこの進め方. しあげ……………

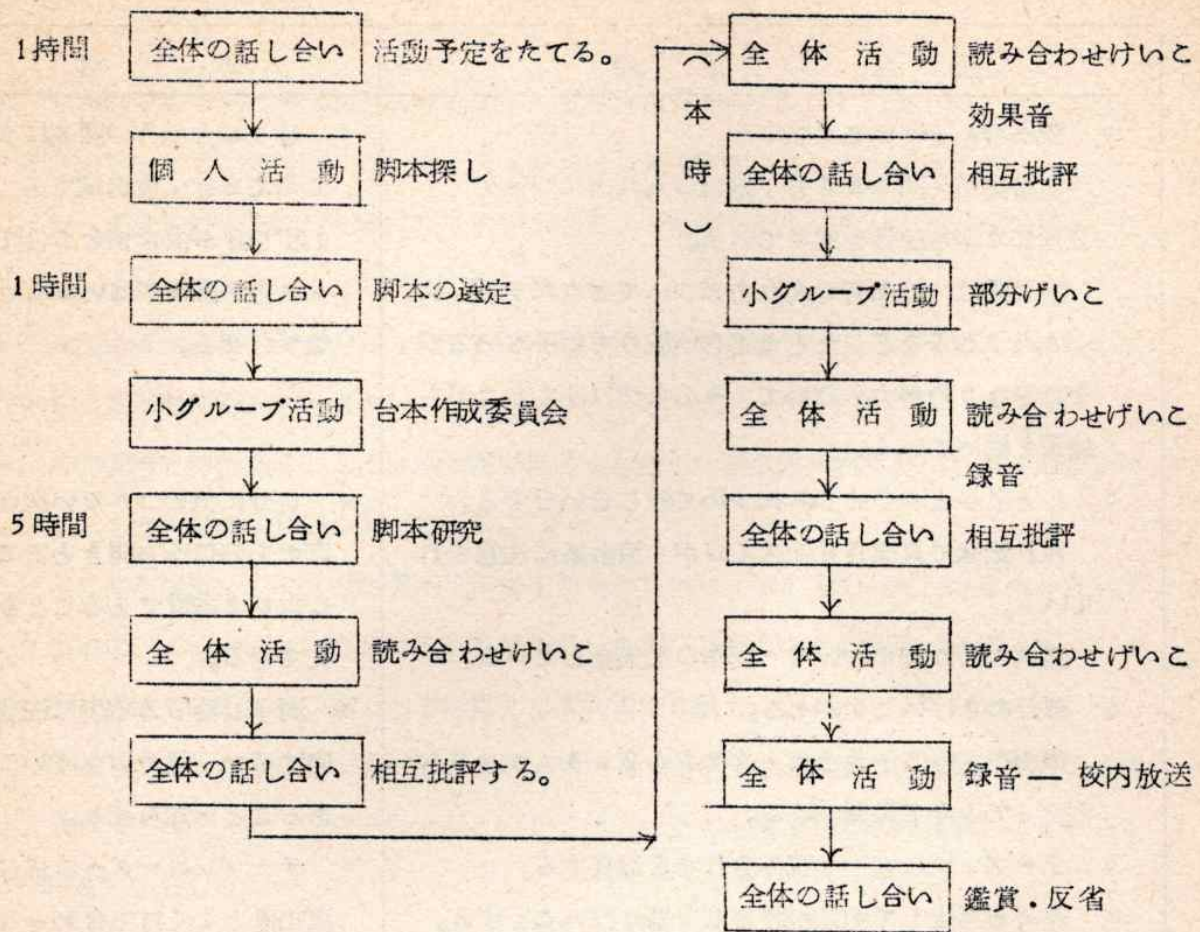
- イ．脚本の選定，台本づくり……………（ 1時間）
- ウ．放送劇のけいこをする。……………（ 5時間）……………本時 $\frac{3}{5}$
 脚本研究，役割分担，読み合わせ，相互批評等……………
- エ．放送劇の録音をする。……………（ 1時間）
- オ．校内放送と その反省……………（ 1時間）

(3) 教師の指導

- ア．みんな演技者になりたいだろうが，演出や効果の仕事も大切な要素であることを考えて役割分担をするように助言をする。
- イ．放送劇が，ふつうの劇とちがっている特質を理解させながら 練習を進めさせるようにしたい。
- ウ．放送劇を じょうずに録音することも大切であるが みんなが楽しく能率的にけいこしていく為には 何か必要かを考えさせて，チームワークの大切さを気づかせるようにしたい。

3. 活動の概要

- (1) 始めの演技練習の頃は 経験未熟な児童も多くて 技術的な面の指導助言も かなり必要だったが，今では，劇の中の役割りや，各々の立場なども理解されてきて 演劇に対する自主的な意欲が かなり高まってきている。
- (2) みんなで脚本を持ち寄って それぞれに推薦理由を述べ みんなの意見で選定した。
 （題材には「泣いた赤おに」をとり上げることに決定した。）
- (3) 台本作成委員を決めて放送劇として やりやすいように台本づくりをして貰うことに決まった。
- (4) リーダーを中心に 上演時間，役割分担，効果等について 話しあいをした。
- (5) 本時は，放送劇のけいこの3時間目，録音を取り入れて，自分たちの演技や チームワークを客観的に 見られる ということや 校内放送という目的を持っている為もあって 大変意欲的にけいこを進めている。
- (6) せりふをよく覚えられない子や，感情のこめ方の不確かな子などには，演出係が中心になってリーダー的な子が何回もくり返し教えているようすも見られる。
- (7) 計画 実践 反省の過程を活動形態によってまとめ図示すると次ぎのようである。



4 活動の実際

(1) 本時の活動

ア. きょうの活動の予定をたてる。(話し合い)

- 「泣いた赤おに」の読み合わせげいこをする。

感情をこめてできるように、効果音も入れてできるように、録音の練習もする。

- 演出係を中心に よく協力しあい 工夫しながら練習する。

イ. 指導のねらい

- 読み合わせげいこをしていく中で、相互の意見交換を活発にして 人間関係をより深めていくようにする。
- 舞台劇と放送劇の違いについて 経験や学習活動をもとにして考えさせ、その特質をつかませるようにする。

ウ. 児童の活動と指導助言

児 童 の 活 動	助 言
<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み合わせげいこを始める。 演出係が 間のおき方,感情の入れ方について注意しながら練習を進めている。 効果係は 効果音の入れ方について台本にチェック A夫, B子など たどたどしい読み方の子もいるが, その子なりの努力を認めて みんなではげましながら練習を進めている。 ○ ひとりひとりのせりふについて話し合いをする。 照れ気味で真面目さを欠くCが 演出係に注意されている。 感情の入れ方について 動作の工夫をしている。 ○ 部分ぬきげいこを始める。 声の小さいD子E子に まわりの2, 3人がせりふをやってみせて元気づける。 ○ テープレコーダーで読み合わせを録音する。 ○ 録音を再生して相互批評をし 部分げいこをする。 ○ 効果係が 開幕, 閉幕の音楽効果, 擬音等について工夫したことを発表し みんなで話し合う。 音楽効果はレコード使用が多い。 ○ 効果音との関連演技について部分ぬきげいこをする。 ○ きょうの活動の反省と次時の予定を話し合う。 なれてきたせいかな演技の表現や進め方に自信をもってきたことがうかがわれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ せりふと動作の関連について考えさせ, 放送劇でも 少しずつ身ぶり表情をつけてやった方が感情がはいることに気づかせる。 ○ 自分に気のつかない欠点を友だちの口から聞きとることは大切な練習であることを考えさせる。 ○ 調子の落ちる個所に注意を向けさせ, 部分ぬきげいこであることを知らせる。 ○ テープレコーダーの係は, 演出係とよく打ち合わせる。 ○ 雰囲気を出しているか 間のとり方等について考えさせる。 ○ みんなの努力工夫が結晶してよい放送劇になってきた。

(2) 活動の発展

- 学習のまとめとして録音した放送劇「泣いた赤おに」を 校内放送で流し, その反響を集めて 反省の材料とした。
- 反省意見の中には 自分たちの作品に対する愛着が感じられるが, その気持ちを大切に育てていくことが 今後の活動を自主的に発展させていく原動力となるのではないだろうか。
- 全員ひとことずつ, 自分の持ち場と全体の成果についての反省意見がだされ 演劇に対する意欲が高まってきたことが感じられる。
- 今後の劇化作品も 発表のチャンス を みつけて発表するようにした。

5 考 察

- 5年生と6年生の能力差というよりも 個人的な能力差が目立ったが リーダー的な6年生のリードで 停滞することなくスムーズに活動を展開することができた。

リーダーに対する助言指導には、特に気を配り 自信を持たせていくことが大切だと思
う。

- 演技指導を直接することは できるだけ避けて 相互批評の中から よい芽を伸ばして
いくような配慮が大切と思う。
- 目的意識を持たせるような活動計画をたてさせると 活発な活動を展開させることがで
きる。(新入生観迎会とか校内放送等)
- すぐれた演技とか 芸術性豊かな作品をねらわないで 子どもの自発活動を中心として
きたので でき上がった作品は未熟な面もあったが 子どもたちの意欲は活発となり そ
れぞれの能力に従って 楽しんで活動してきたように思う。

なお、子どもたちがリーダーを中心に チームワークをとりながら 協力し合って練習
を進めてきたことは 自主的な活動というクラブ活動の本質を体験的に理解してきたこと
ではないかと思う。

分担活動を生かしたクラブ活動の実践例

科学クラブ		6年男	5年男	指導者
	クラブ員	14	11	2

1. 活動題材がきまるまでの経過

- (1) 今年度の活動計画について話し合う(年間実施計画を立てる)……4月第3、4週

第1回 自己紹介、参加の動機、希望を発表しあう。指導者が昨年の活動記録を紹介す
る。クラブ長、副クラブ長、書記を選出する。クラブ長の司会で今年度の活動の
希望を表に整理する。次回の予定を立てる。

第2回 指導者から今年の活動予定時数を発表。活動題材を(表)から選び出して学期
ごとに時間をふりあてる。題材別に世話をするグループを編成する(6グループ
に分かれ、1グループ2題材ずつうけもって、活動計画の提案を用意したり、活
動の準備をしたり、世話をしたりすることになる)クラブ長、副、書記が、年間
実施計画を模造紙にまとめて掲示しておくことにする。

ア. 活動題材と活動形態との調和を図るために

第1回の話し合いで児童たちの希望を表にまとめたところ「顕微鏡の使い方を知りた

い」「モーターを作りたい」「電気を研究したい」「石炭からガスを作りたい」「葉の働きを調べたい」「植物標本を作りたい」「昆虫の生長を調べたい」「電磁石を作りたい」「温度計をつくりたい」「秤を作りたい」「酸素について調べたい」「花の名前をたくさん覚えたい」「昆虫の標本を作りたい」などが出た。分野が多方面にわたり、しかも、昨年できなかったことを今年はやりたいという希望をもって継続参加してきた6年生もあるので、花や虫を研究する班(生物班)と実験や工作をして研究する班(実験工作班)とに大きく分け、それぞれの班で題材別にグループを作って活動計画(題材別)や活動準備の世話をすることになった。計画の決定や実際活動は全員の話し合いによってすることになった。活動希望発表の際「不明」という意志表示をした子が3名あったので、昨年度の実施計画や、他の子たちの希望を参考にして選ぶことをすすめて、それぞれの所属を決定させることにした。

イ. グループ編成への指導的な配慮

グループ構成が同学年・学級に偏ることを避けるため、クラブ活動は、年上、年下の助け合いによって仲よく楽しく研究をしていく活動であることを知らせて、興味・関心の共通するもの同志を組ませるようにじゅう分にそれぞれの希望を発表しあうことをすすめた。

(2) 年間実施計画と活動案担当のグループ

おもな活動	おもな活動	おもな活動
<ul style="list-style-type: none"> ○活動の計画をたてたりグループを作ったりする〔4月.2〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○二学期の活動計画と方法について相談する。夏休研究展〔9月.1〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○三学期の活動計画と方法について相談する。〔1月.1〕
<ul style="list-style-type: none"> ○プランクトンの観察〔4月.1〕(生1) ○葉の働きを調べる〔5月.3〕(生2) ◎電磁石を作る〔5~6月.3〕(実1) ○植物標本の作り方〔6月.2〕(生2) ○昆虫標本の作り方〔7月.2〕(生1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○モーターを作る〔9~10月.6〕(実1) ○酸素の性質を調べる〔10~11月.2〕(生3) ○動くおもちゃを作る〔11月.3〕(実2) ○温度計を作る〔12月.3〕(実3) 	<ul style="list-style-type: none"> ○石炭からガスをとりだす〔1月.2〕(実2) ○昆虫の冬越し観察〔2月.2〕(生3) ○秤を作る〔2~3月.2〕(実3) ○発表会の準備 ○発表会〔3月.2〕
<ul style="list-style-type: none"> ○1学期の反省 	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の反省 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の反省
<ul style="list-style-type: none"> 予定時間14時間 	<ul style="list-style-type: none"> 予定時間15時間 	<ul style="list-style-type: none"> 予定時間9時間

※ 表中〔 〕内は活動月と予定時数を示し、()内は活動計画提案の分担グループを示す。
生1は、生物班第1グループ、実1は、実験工作班第1グループを示す。◎は事例題材。

2. 題材別実施計画

(1) 活動題材 電磁石を作ろう(3時間)

(2) 活動の予定

第一次 電磁石作りの計画を立てる(全体・提案実験工作班第1グループ)..... $\frac{1}{3}$ 時間

第二次 U字型電磁石を作る (グループ・個別活動).....1時間

[本時は第2次後半と第3次]

第三次 電磁石の強さ、電極を調べる(グループ活動)..... $\frac{2}{3}$ 時間

第四次 電磁石を使ったおもちゃをくふうする(グループ活動).....1時間

(3) 教師の指導

ア．立案担当グループに参考となる資料を紹介する。〔学校図書館所蔵・工作教室V015
科学教室研究集録38年度版など〕

イ．第一次前の立案担当グループの話し合いに参加し、予定時間内で消化できるような計画を立てるようにする。

ウ．火を使わずにできる製作法を調べさせる。

エ．実際活動の場合、立案グループのメンバーが分かれて他のグループの中にはいり、援助しながら活動を進めていくとよい。その際、みんなの意見をよくまとめながら活動を進めていくように。

オ．予算に合わせて(800円)材料の準備をするように。

カ．実験の作業は、みんなで公平に分担して なかよくする。

3. 活動の概要(活動の実際にはいるまでの経過)

(1) 活動にはいるまでの準備——年間実施計画に示されている題材別の立案担当グループが、指導者を交えて活動計画の案を立てている。指導者は、生物班と実験工作班の相談相手に分かれて担当、助言することになる。本題材の担当グループは、第一次活動の前に図書室に集会、教科書・参考書・研究集録などを資料にして活動計画を立て、第一次の話し合いに提案した。“みんなに教える前に自分たちで作ってみてはどうか”という意見がでたが、時間がとれないため集合して作業することは無理なため、めいめいで作ってみるようになる。他のグループの子たちが、“今度はどんな方法ですか”と聞きにくそうである。

- (2) 活動計画のための話し合い グループ提案では、第二、三次ともに電磁石の性質調べを提案したが、他の者の希望により、第三次は「電磁石を利用しておもちゃを作ろう」ということになる。
- (3) U字型電磁石作り —— 他の5つのグループに、担当グループの子が分かれてはいるが磁石づくりを始めた。針金を束ねてU字型に折り曲げ、紙テープをまきつける作業までを終えた。個人活動にはなるが、U字に曲げるためのくふうをグループで相談し合って進めていた。(万力を使い、竹を軸にしてなど)5年生の中には6年生の意見を聞いて、また、6年生でも、5年の立案係りの手をかりて針金の束を整えているものがあった。作業能力に差があり、遅れてしまう子もあったが、早く終えた者が手をかしていた。終業10分前、きょうの活動の反省、来週の予定の話し合いをもつ。次時は、エナメル線巻きと実験にはいるが、強さを調べるグループと電極を調べるグループに分かれる相談をして解散した。

4. 活動の実際

- (1) 本時の活動 (題材別実施計画第二次 $\frac{1}{3}$ と第三次 . 活動時間60分)

ア. 活動のめやす 強い電磁石を作って、電磁石の性質(強さの変化、電極)を調べよう。

イ. 指導のねらい

(ア) エナメル線のじょうずなまき方をみんなにくふうするように

(イ) 立案グループのメンバーを中心に各活動グループが協力して仕上げたり実験できるように

(ウ) グループごとの実験の結果は、同じテーマのグループ同志で結果を発表しあって検討したのち、全体に発表するように

- (2) 児童の活動と教師の指導助言 (60分単位)

形態	活動の記録	助言	時間
当番	○工作、実験材料の準備	○人数に合わせて数の点検	始前5'
全 体	○クラブ長司会で挨拶、書記出席者確認〔実1〕 からきょうの活動計画の説明、確認のための話し合い	○今まで意見発表や質問の少ない子(4名)にめあてが掴めたか聞いてみる	5'
グ ル ー プ	○グループ別のそうだん(強さ調べ班の記録) 500回、300回まきを作る者に分かれる。 実験の方法を担当児童が説明する、確認のための話し合い	○きれいに巻くためにみんなにくふうしあおう	5'

形態	活動の記録	助言	時間
グループ人	<ul style="list-style-type: none"> ○エナメル線まきの作業をする 持ち方・巻き方・揃え方・まき終わりの止め方について教え合ってくふうしている。担当リーダーの子たち生き生きと活動している 	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダーは、グループ内の全員に目をくばるよう。 	20'
グループ・全体	<ul style="list-style-type: none"> ○強さをたしかめ強さを変える実験をする ボール紙皿に3cm釘をのせて引き上げる実験〔担当グループ案〕。300回まきを500回まきと同じ強さにするため電池をふやして実験 ○同主題別グループの結果の交換をする 同じような結果になったことを確認し合う ○他の実験グループがまとめた結果の報告を聞く、電極グループ・強さのグループ 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんな公平に実験の機会が持てるように ○細かな数の傾向よりも全体の傾向で結果を出すよよい〔…するほど…なる〕 	25'
全体・個人	<ul style="list-style-type: none"> ○きょうの活動の反省をする。司会クラブ長生物班の子からもたのしかったという声がある。活動記録の整理をする。用具の後しまつ ○つぎの活動の予定の相談〔実1の説明で〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間のじょうずな配り方 ○つぎの活動のためには予定をたてることが大切 	5' 終後 10'

5 活動の発展

- (1) 前期「児童の活動」の中の「次の活動の予定の相談」で、5つのグループが、共同製作によりおもちゃを作ろうという計画が立ち、プザー作り、機 機作り、餌を食べる小鳥のおもちゃ、電信機、おきあがりこぼりしを作る相談がきまった。今まで意見発表のなかった子が、おきあがりこぼりし作りのプランを出してみんなを驚かせ、とり上げることになった。細かなものは、1グループ2～3人に分かれて2組作る、工作に必要な材料は手持ちの資材を持ち寄るなど、自主的に決めていた。
- (2) 第四次の活動では、グループごとの相談から始まり、作業を機心に時間をとった。でき上がったものをみんなで見合い苦心したところの発表が交換された。なお、この作品は、クラブコーナーに陳列掲示して、みんなに見せ、学校放送のクラブ活動の紹介に放送原稿を提供することにした。下級生がコーナーに集まっておもちゃを動かしていることを楽しそうに報告しにくる児童もあった。
- (3) 植物標本担当のグループが、図書館で次の活動計画を立てたいが…と教師の都合を聞き

にきて、意欲的な様子がかがわれるようになった。

6. 考 察

- (1) 責任をもって立案させることは、活動意欲を高める手だてのひとつとして重要である。
また、それが、他の児童の次の活動への期待を誘うことにもなったようである。
- (2) 解決のために調べるという自主的な態度が身についてきたと思われる。
- (3) 限定した時間の中での活動計画の立案は、能率的な作業活動をくふうさせる結果を招き助け合いをしようとする心を開かせることがわかった。
- (4) 上記のような分担活動をする場合、知っているものが得点になってリードし、あとのものはそれにたどって活動する傾向に陥りがちになるので、リーダーは、いつもみんなの意見をよく聞き、それらの意見もとり入れて活動を進めるような協調性を育てる助言が必要である。この機会が、学級のワクを少しずつのぞき、知っている者から聞いて試してみようとする心を開かせたことがうれしかった。
- (5) 科学クラブにおける興味関心の対象は、まとめれば多方面に亘る場合が多いが、ひとりひとりの児童については、狭いものがあるので、新しい興味関心の分野を開いてやる意味で上記のような運営の方法を進めてきた。これにより、今までと違った面への興味が出はじめた児童がいることが、記録によってわかった。
- (6) 自分たちの成果が、クラブ外の人からも認められるということも、活動意欲を育てる大きな手掛りのひとつとなる。コーナーや、学校放送、発表会などの利用にも配慮したい。

7. 今後に残された問題点

- (1) 1時間の活動の中で果たす教師の役割（特に児童の活動に即した教師の発言の場、内容等の吟味が必要）はどうあったらよいか。
- (2) よいリーダーは、よいメンバーでもある。よいリーダーの育成をはかるための指導は、いかにすべきか。

あ と が き

今年は11月から研究にとりかかったが、部員の熱意ある努力によって、共通の興味、関心が教師集団にも盛り上がり、忙しい勤務の中で、集会の回数も、人数も、内容も充実して、活気のある資料検討がなされたことをうれしく思う。

これからは、若い世代の指導者にも、積極的に研究に参加してもらう方法を考え、底辺を広めていくことが都特活の今後の一つの使命と考える。

クラブ活動部会

部長	台東	浅草小	高橋	元子				
副部長	世田谷	芦花小	竹内	宣	中野	多田小	蛸井	聡
〃	荒川	四日小	仲岡	久王	江東	白河小	小河	一久
	南多摩	多摩三小	安藤	正邦	豊島	池袋一小	影山	二三夫
	板橋	上板橋小	横田	杉男	板橋	上板橋小	檜山	清之助
	目黒	宮前小	坂元	正文	台東	黒門小	佐藤	正雄
	杉並	荻窪小	鈴木	一敬				

発表者

荒川区立第四日暮里小学校

仲岡久王

本年度の研究をふりかえって

専門部長 南多摩郡多摩第二小学校長 奥 田 勉

本年度も、研究集録第4集の発刊をむかえることができました。

専門部（学級会、児童会、クラブ活動）の研究ですが、三部門の主任、幹事の活動が中心で、多忙をさいでの努力とご苦勞に敬意を表します。初年度より「指導計画のあり方」を主題とした研究を続けてきましたが、指導計画作成上、なお、多くの課題や要望をかかえています。目標や内容の明確化、教育目標との関連、調和のとれた計画、教科や学校行事等の関連など、ムラ、ムダ、ムリのない、すっきりした計画がほしいなど。

本年度は「指導計画と実施計画作成上の観点」を具体的主題として、各区の実践例を中心に、目標、内容などを明確におさえた観点を打ち出し、評価もふくめた考察を加えるなどの研究を進めてきました。

現場のもつ、問題や悩みに密着した研究なので、各学校の問題解明や、計画の改善などに参照していただければ幸いです。ご利用願ひ、忌憚のないご指導ご助言をお願いします。